

三省堂 高校英語教育

2016年 夏号

巻頭エッセイ

それぞれのギフトを 内野 加奈子 …… 1



特集 教科書(改訂版) Part 1

- 『CROWN English Communication I New Edition』 -果敢なる挑戦のために- 霜崎 實 …… 2
- 『MY WAY English Communication I New Edition』 -教科書分析の4つの論点と2つの視点- 森住 衛 …… 6
- 『VISTA English Communication I New Edition』 -学んでみたくなる、魅力ある教科書を目指して- 金子 朝子 …… 10
- 『CROWN English Expression I New Edition』 -文法の学習を表現力の育成へ- 松原好次 …… 14
- 『MY WAY English Expression I New Edition』 -より分かり易く、使い易く、活動的に- 飯田 毅 …… 18
- 『SELECT English Expression I New Edition』 -更なるユーザーフレンドリーな教科書を目指して- 井上 徹 …… 22
- 『SELECT English Conversation』 -繰り返しが会話力をつける- 北出 亮 …… 25



2016年度センター試験の分析と対応 渡辺 聡 …… 28

LA便り 石塚美佳 …… 表紙裏

表紙写真について 岩佐洋一 …… 表紙裏

ポップ文化の香り漂う街

東京工科大学 石塚美佳

米国第2の大都市、カリフォルニア州ロサンゼルス (Los Angeles)。メキシコからの入植者が定住し、「天使の女王の町」(El Pueblo de la Reina de Los Angeles) と呼んだことが、地名の起源だと言われている。20数年ぶりに仕事で訪れると、真っ青な空とまばゆい太陽が歓迎してくれた。時を経ても、カリフォルニアのすがすがしい空は変わらない。

空港到着後、まずはロサンゼルスの西に位置するサンタモニカへ。ビーチ沿いの観光案内所脇に、ひっそりと立つ「ルート66」(Route 66)の標識を見つけた。ルート66は伊利ノイ州シカゴとロサンゼルスをつぶ旧国道で、アメリカの小説、音楽や映画・ドラマにも度々登場する。カリフォルニア州出身の作家ジョン・スタインベックは『怒りの葡萄』の中で、西部発展を支えた貧しい開拓民が西へ西へと目指す姿を描き、ルート66を「マザーロード」(The Mother Road)と呼んだ。音楽では、ナット・キング・コールが歌った「ルート66」をローリング・ストーンズはじめ多くのアーティストがカバーしている。近年では、2006年公開のディズニー映画『カーズ』の当初のタイト



ル候補が、『ルート66』であったことが知られている。サンタモニカはルート66の最終地点であるが、周囲にはサンタモニカ・プレイスなど大規模ショッピングセンターや観光客目当ての店が立ち並び、いまや控えめに標識が立っているのみである。

サンタモニカを離れ、一路ハリウッドへ。映画好きなら一度は訪れたい場所である。20数年前にも訪れたかったのだが、アメリカ人の友人から「治安が悪い」の一言で止められた。今回念願の訪問となり、研修に参加した学生たちよりも興奮していたと思う。ハリウッド・ブルバード沿いにあるドルビー・シアターは、2001年以来毎年アカデミー賞授賞式会場となっており、劇場に続く大階段の両脇には、過去の受賞作品が名を連ねている。それらを眺めているだけでも、プレゼンターが“The Oscar goes to ...”と受賞を発表する様子が目に浮かび、これまでに観た作品が思い出される。近くにあるTCLチャイニーズ・シアター前は、人気映画スター200人以上の手形・足型が並ぶ名所だ。その中で唯一、歌手でありながら、そして唯一亡くなった後に展示されたのがマイケル・ジャクソンのものである。彼の存在がアメリカのポップ文化においていかに大きかったことかを物語っている。ちなみに、ディズニーの代名詞、ミッキー&ミニーマウスやドナルドの手形・足型も並んでいるので、探してみると楽しいであろう。



リオデジャネイロ、マラカナスタジアム

麻布中学高校 岩佐洋一

昨夏、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルの3か国を訪れた。どの国でもサッカー観戦を楽しみにしていたが、この写真は世界一有名なサッカースタジアム、マラカナで行われたフラメンゴVSバスコダガマ戦のスタンドの様子である。(ちなみに、来たるリオ・オリンピックの開会式、閉会式もここで開催される。)

この試合は、本拠を共にするリオのダービーマッチ。試合前日にスタジアムでチケットが購入できた時は、収容人員76,000余とはいえかなり高揚した。それまで、サンパウロでもブエノスアイレスでも、人気チームのチケットがうまく入手できなかったのだ。

南米のサッカー熱はつとに有名だが、ソシオと呼ばれるファンクラブがやたらに熱い。チケットもソシオを中心に回し、高い手数料を上乗せされた高価な「観光客向け入場券」をエージェンツ経由で買う以外、人気チームの入場券はなかなか入手困難だ。

南米サッカーには別の困難もある。それはスタジアムの立地。ブエノスアイレスでは、2大人気チームのうち、「リ

バープレートは大丈夫だが、ボカスタジアムはかなり危ないところがあるので細心の注意をすべし。集団で行っても日本人はやられている。」と教えられた。ウルグアイでも、「郊外のスタジアムに行くときは、必ずタクシーを使うべし。」とホテルのフロントから忠告された。

さて肝心の試合のほうだが、プレイのレベルの高さには「さすがブラジル」となった。パススピードの速さ、トラップの正確さはそれだけで楽しめる。全員がとにかくうまい。それゆえ、ボールがタッチラインを割る回数が少なく、全く間延びしない。また、応援もこれまた熱い。日本では代表戦であってもゴール裏以外は、みな行儀よく椅子に座っているが、マラカナでは椅子に座らず立っての応援が基本。私の席は日本ではS席相当のところだったが、全員が立ちあがっての応援だったので、仕方なく立ちっ放しでの観戦となった。

この試合でのもう一つの特筆事項は、キックオフの時間。なんと午後10時。サンパと明るいうちで有名なリオデジャネイロだが、その犯罪発生率の高さも世界有数。試合終了時刻が夜の12時というのは正直怖いものがあった。しかし、行き地下鉄は普通の人々が普通に乘っているし、チームユニフォームを身にまとったサポーターたちも大勢いて一安心。帰りも多くのサポーターたちと地下鉄に乗り、ホテルまで帰った。結構、達成感があった。

それぞれのギフトを

〈海の学校〉主宰 / 土佐山アカデミー理事

内野 加奈子

1976年、〈ホクレア〉と呼ばれる一艘の伝統航海カヌーが、ハワイからタヒチを目指す約4千5百キロの旅に出航しました。太平洋の真ん中にぽつんと浮かぶハワイ諸島に、最初に人が降り立ったといわれる約1,300年前、人々は一体どのように、大海原の孤島に辿り着いたのでしょうか。それを実証するために、伝承をもとに再建された〈ホクレア〉は、海図やコンパスを使うことなく、星、月、太陽や波の動き、風の向きといった自然からのサインを読み解く伝統航海術を使って、ハワイ出航から31日後、水平線の彼方のタヒチを見事に見出し、航海を成功へと導きます。

一度きりの実験航海のはずだった〈ホクレア〉の航海は、ハワイやタヒチをはじめとするポリネシアの数多くの島々で、人々が伝統文化への深い誇りを取り戻すきっかけとなり、その後も数多くの航海を重ねることになります。初航海から間もなく40年目となる現在は、3年に渡る世界一周航海の真最中です。

そんな伝統航海の魅力に惹き付けられた私は、2000年にハワイに渡り、大学で海洋学を学ぶ傍ら、〈ホクレア〉の活動に参加するようになりました。星や波、空の読み方や、海でのカヌーの扱い方を学んだり、カヌーの修繕活動を手伝ったりする中、2004年、ハワイ北西諸島に向けての航海のクルーとして選ばれ、2007年には、ハワイから日本へ向けた、1万3千キロ、5ヶ月に及ぶ航海のクルーとなりました。

私は伝統航海術を学ぶ中、2人の師に恵まれました。ひとりにはミクロネシア、サタワル島のマウ・ピアイルグ、そしてもう一人はハワイのナイノア・トンプソンです。マウは、1976年、ホクレアのタヒチへの初航海を成功へと導いた伝統航海術師です。生まれてすぐに、伝統航海術の継承者として選ばれ、赤ん坊の頃から、航海術師としてのトレーニングを受けた存在です。ナイノアは、そんなマウの弟子として、航海術を学び、ハワイで数百年の間、失われてしまっていた伝統航海術を、現代へと蘇らせました。

数多くの偉業を成し遂げた2人に、私ははじめ、どこか超人的なイメージを抱いていました。けれども、彼らの側で学んだり、航海を共にしたりする中で、少しずつ、彼らの人間的な側面が見えてきます。超人だ



●プロフィール：ハワイ大学院にて海洋学を学び、日米の教育機関と提携しながら、自然をベースにした学びの場づくりに携わる。伝統航海カヌー〈ホクレア〉の日本人初クルーとして、歴史的航海となったハワイ―日本航海をはじめ、数多くの航海に参加。土佐山アカデミー理事。〈海の学校〉主宰。著書に『ホクレア星が教えてくれる道』（小学館）

と思っていた彼らも、不安がったり、悲しんだり、怒ったりします。間違えたり、失敗したりします。体調を壊して寝込んだりします。彼らは決して、強靱な体力と精神力ですべてをこなす超人ではなく、普通の人間のように揺れる心と揺れる身体を持ち合わせ、失敗を繰り返しながら生きているのです。

私ははじめ、そんな彼らの姿を見ることで、理想の偉人像が壊れてしまうのではないかと考えていました。けれど、彼らを知れば知るほど、以前よりもずっと尊敬の念を持って、見るようになっていきました。

彼らは自分の弱さもしっかりと受け止め、受け入れながら、それを隠すことなく、その分、自分の持っている力を存分に発揮するために、最大限の努力を続ける存在でした。マウは、老衰した不自由な体に無理をかけながら、自ら手を動かしてカヌーを作り続けたり、遠くの島まで航海術を教えに出たりしていました。ナイノアはどんなに忙しくても、必ず海に出る時間を取り、夜遅くまで仕事があっても、暗闇の中、小さなアウトリガーカヌーで海に漕ぎ出していました。

マウは太平洋の海洋文化の歴史を大きく塗り替えた存在であり、ナイノアは、現在も航海術師として活躍する傍ら、ポリネシア航海協会の会長やハワイの先住民文化を支えるカメハメハスクールの理事を務めるなど、ハワイではLiving Legendとして尊敬を集めています。一見、普通では成し遂げられないような偉業をこなした彼らも、決して“特別な人”ではありません。彼らはただ、自らが心惹かれるものに、ひたむきに力を注ぎ、そしてそれを心から楽しみながら続けていました。それは、自分に与えられたギフトに責任を持つ姿勢、といってもいいのかもしれません。それぞれのギフトを磨き、それを差し出し合うような社会。そこには限りない豊かさがあるような気がしてなりません。

『CROWN English Communication I New Edition』 —果敢なる挑戦のために—



『CROWN』シリーズ代表著者
慶應義塾大学 霜崎 實

1. はじめに

平成21年(2009年)の学習指導要領の改定を受けて、現行版の『CROWN English Communication I』が発行されたのが、平成25年(2013年)の3月のことである。早いもので、高等学校の教室で実際にこの教科書が使われて、3年余りの月日が経ったことになる。

その間、現場の先生方からは多くの貴重なフィードバックを頂戴し、それを受けて編集委員会での密度の濃い議論が行われ、膨大な執筆・編集作業の果てに、この度、『CROWN English Communication I』の改訂版が完成するに至った。

今回の改訂版は同じ学習指導要領のもとに編纂されたものであるが、現行版の良さは十分に尊重しつつ、一方、現行版の使いにくい点については改善を加えることで、より進化した教科書に生まれ変わることができたものと確信している。本誌の2014年夏号の拙稿では、クラウン・シリーズを振り返って「もう一步先に行く教科書を目指して」という副題を付したが、今回は、「さらにもう一步先に行く教科書を目指して」という副題が相応しいかもしれない。

さて、前置きはこのくらいにして、以下、今回の改訂のポイントを解説すると同時に、新しくなった教科書の活用の仕方についても適宜ご紹介することにしたい。

2. 改訂の基本方針

第1の改訂のポイントは、題材の大幅な刷新である。現在では、クラウンの<題材中心主義>という考え方が浸透しており、その中で、クラウンらしさを具現化しているようなレッスンについては今回も継続使用としたが、一方では、大胆な刷新を行うことによって、時代の一步先に行く教科書づくりを目

指すことにした。具体的には、題材の多様性を確保しつつ、本課10レッスンのうち4レッスンの題材の差し替えを行い、加えて、Reading (1) & (2)、Optional Lessonについては全面的に差し替えることとした。すべてを合わせると13の題材のうち、7つの題材が差し替えとなっているので、大幅な改訂といってもよい。

第2の改訂のポイントは、生徒の思考力や知的好奇心に訴えるような題材を厳選し、それをもとにさまざまなコミュニケーション活動を組み込むこととした。いわば4技能が有機的な関係を持ち、それぞれが相乗効果をもたらすようなレッスン構成を目指した。結果として、後に詳述するように、現行版のActivitiesを廃止して新たにYour Reactionを設けることで、本課での内容理解をもとに、コミュニケーション活動を通じて生徒自らが自分の考えを構築していけるような場を提供することができた。

第3の改訂のポイントは、学習指導要領の要請にしたがって、「質量面での格段の充実」を追求することである。以前の教科書観では、「教科書を教える」という考え方が当然視されていたが、現在では「教科書で教える」という考え方にシフトしている。つまり、教科書にあるから教えるのではなく、教科書にある題材を、現場のニーズにしたがって選択的に扱うことが教師に求められているのである。したがって、教科書編纂においても、そうしたニーズに応えるべく、読む価値のある教材をオプションとして用意しておく必要がある。そのための一つの方策として、現行版に引き続いて今回の改訂版においても、各レッスンにOptional Readingを用意することにした。

第4の改訂のポイントは、指示文などの英語化である。現行版では、指示文は日本語で提示することを原則としていたが、今回の改訂では、それを英語

に改めることにした。学習指導要領の浸透に伴い、英語での授業活動が一般的になりつつある現状に鑑みて、指示文が英語で提示されていたほうが、活動をより円滑に進めることができるだろうという判断である。また、本課の傍注で慣用表現を取り上げるようにしたが、ここでもできるだけ日本語を使わずに、英語によるパラフレーズを行うようにした。

次に、より具体的に、題材内容とレッスン構成について話を進めていくことにしたい。

3. 多様性に富んだ題材

『CROWN English Series』では、常に題材の多様性と新鮮さを追求することを原則としてきたが、今回の改訂にあたって、一貫して、この原則に沿った題材選択を行っている。本課で取り上げたテーマは、言語・科学・生き方・伝統文化・音楽・格差社会・環境問題・動物の知性・建築・ボランティア活動・平和・ポップカルチャーなど、きわめて多岐にわたっており、『CROWN English Series』ならではの学びの機会を提供することができたと自負している。以下、具体的に各レッスンで取り上げたテーマとその概要を示すが、今回のラインアップが知的好奇心に富んだ高校生にとって、英語を通じて知性と感性を

磨く絶好の機会となるものと確信している。

本課は合計10レッスンから構成されている。そのうち星印(★)を付した4レッスンが今回新たに導入されたもので、残りの6レッスンについては、現場からの要望もあり、現行版からの継続レッスンとした。ただし、星印(☆)を付したL. 2 “Going into Space”、およびL. 4 “Seeing with the Eyes of the Heart” (タイトルも“Playing by Ear”より変更)については、一部修正を加えることで、内容を時代に即したものにした。

また、Reading 教材2編は、全面的に差し替えて、“Homework”と“Love Potion”を取り上げた。ともにユーモアに富んだ作品である。読むことで自然に笑いが出るようになれば、英語がそれだけ好きになってくれるに違いないという期待を込めて、生徒が読んで楽しめる素材を選択した。

Optional Lesson (選択教材)についても差し替えを行い、改訂版では“Heroic Losers”を新たに導入した。2020年には東京での夏季オリンピックの開催が決定しているが、このレッスンではそうした時代の流れを捉えて、実際にあった2つのエピソードを紹介することで、オリンピック精神について考えるものとした。

『CROWN English Communication I New Edition』の題材：テーマと概要

| レッスン | タイトル | テーマと概要 |
|-------------------|-----------------------------------|---|
| Lesson 1 ★ | When Words Won't Work | 【言語・(日本)文化】グローバル化が進む現代において、ピクトグラム(絵文字)による情報伝達の可能性・重要性について考える。 |
| Lesson 2 ☆ | Going into Space | 【科学・生き方】若田光一氏が国際宇宙ステーションでの活動経験や宇宙開発の意味について語る。 |
| Lesson 3 ★ | A Canoe Is an Island | 【伝統文化・共生】<ホクレア号>の乗組員として、伝統航海術によって太平洋を航海した内野加奈子氏の体験に学ぶ。 |
| Lesson 4 ☆ | Seeing with the Eyes of the Heart | 【音楽・若者の生き方】ピアニストとして活躍する辻井伸行氏の体験を通じて、音楽による感動について考える。 |
| Lesson 5 | Food Bank | 【格差社会・NPO】貧困に苦しむ人々に食料が行きわたる仕組みを作ったチャールズ・マクジルトン氏の活動を紹介する。 |
| Reading 1 ★ | Homework | 【ユーモア】快適な生活をエンジョイできる近未来を舞台とするショート・ショート。それでも子供には子供なりの悩みがあるようだ。 |
| Lesson 6 | Roots & Shoots | 【環境教育・動物】ジェーン・グドール氏がチンパンジーの習性・人間との類似性・環境教育について語る。 |
| Lesson 7 ★ | Paper Architect | 【建築・ボランティア】被災地での支援活動に積極的に携わってきた建築家坂茂氏の体験を通じて、建築家の役割について考える。 |
| Lesson 8 | Not So Long Ago | 【平和・歴史】20世紀を写真で振り返りつつ、戦争と平和について考える。 |
| Lesson 9 ★ | Crossing the “Uncanny Valley” | 【科学技術・人間理解】人型ロボット、アンドロイドの制作に携わる石黒浩氏の研究を通じて、ロボット工学の現在を紹介する。 |
| Lesson 10 | Good Ol' Charlie Brown | 【生き方・価値観】チャールズ・シュルツ氏の作品『ピーナッツ』を通じて、生きるうえで何が大切かを考える。 |
| Reading 2 ★ | Love Potion | 【ユーモア】気になる男の子の気を引くために、少女が相談したのは、「魔女」である祖母。どんなアドバイスをもらったのか。 |
| Optional Lesson ★ | Heroic Losers | 【スポーツ】メダル獲得が目されるオリンピックだが、負けても記憶に残る選手がいる。ここでは、オリンピック精神について考える。 |

4. 各レッスンの構成

ここでは、各レッスンの構成について解説する。

4.1 Pre-reading 活動

タイトルページでは、本文のテーマを端的に表現したエピグラフを用意した。エピグラフの性質上、やや内容的に難しいものや抽象的なものも含まれてはいるが、いずれも含蓄に富んだものである。レッスンに入る前に、どのような意味合いなのかを考えさせるのも一案である。あるいは、本文の学習を一通り終えた段階で、本文との関連性について生徒にディスカッションさせてみるのもよい。

さらに、Pre-reading 活動として、Take a Moment to Think を設けた。レッスン内容に関連した英語の問いを3つ提示している。生徒の背景知識を活性化させることを目的とした質問であるから、本課への導入を英語で行う際に活用していただきたい。

4.2 Reading 活動

本文は650語程度から850語程度の英文で、各セクションは原則として見開き2ページ、4セクションから構成されている(ただし、§1は左ページがタイトルページとなっているので、本文は1ページ構成である)。

傍注で慣用表現とそのパラフレーズを取り上げ、例文が必要な場合は脚注で提示した。また、本文の内容理解を確認するための簡単な英語の設問(Q&A)を設けているので、授業での活動に活用していただきたい。さらに、各セクションの末尾には、リスニングによる内容理解の質問(T-F)も用意した。

4.3 Post-reading 活動

Post-reading 活動は、(1) Comprehension、(2) Your Reaction、(3) Grammar、(4) Exercises、(5) Optional Reading と続く。

(1) Comprehension

まず、Comprehension の Check においては、multiple choice 形式の内容把握問題を3問用意した。作成にあたっては、瑣末な問題は極力排し、内容の骨子や重要な情報を問う問題に絞った。

続いて穴埋め形式の Summary を用意した。要約することで、本文の全体像を俯瞰する能力を養うこ

とを目的としたものである。しかし、単に穴埋めすることで要約活動が完結する、と考えているわけではない。授業では教科書の Summary から離れて、まず生徒に独自に英文の要約を作成させるのも一案である。その上で教科書の要約問題に取り組み、後に両者を比較検討させることで要約のコツを掴ませる、といった工夫も考えられよう。

現行版では本文の末尾に配置していた Food for Thought を、改訂版では Comprehension の末尾に移動した。このコーナーは、現行版で初めて導入したものであるが、もともと OECD による国際学習到達度調査(PISA)における「読解力」を意識したもので、生徒が情報を取り出し、解釈し、自らの体験を踏まえて英文内容を理解することを目的としたものである。もちろん、「英語 I」の段階で高度なものを要求しているわけではない。今回の改訂を契機に指示文は原則として英語としたが、Food for Thought は例外とし、日本語での質問に対して、日本語で答えることを想定している。英語の教科書であっても、より深い理解に到達することを目指しているため、あえて日本語での指示文とした所以である。

(2) Your Reaction

Your Reaction は、今回、全面的な改訂を行った。このセクションは、本文の内容の理解を前提として、聴く活動(listening)、話す活動(speaking)、書く活動(writing)などのコミュニケーション活動を通じて、自分の考えを構築することを目的としたもので、4つのパートから構成される。

まず、Agree or Disagree では、本文での主張(意見)に関して、ある意見が表明される。たとえば、L. 2 “Going into Space” では、There is no reason to send people into space. We should spend the money to help poor people. という意見が表明されており、これについて、agree、disagree、cannot decide の中から、自分の立場に近いものを選択する。さらに、Why? という質問が続くので、自分がなぜそのような立場を選択したのか、その理由を英語で書いてみる。生徒は自分の考えを直観的にまとめるだけであるから、いわば準備活動のようなものである。

次に、Let's listen to the dialog に進む。ここでは、Mei と Jerry の二人のダイアログを聴いて、リスニングによる内容理解を試みる。ダイアログの内容は、Agree or Disagree での意見に関するもので、意見を

異にする Mei と Jerry が議論を展開している。スクリプトは教科書の巻末に掲載しておいたが、生徒にはあらかじめスクリプトを見せることなく、リスニングから入るようにしたい。ダイアログで使われている新語や慣用表現については教科書に挙げておいたので、適宜参照するとよいだろう。何度か反復してリスニングの練習をしたあとで、必要に応じて巻末のスクリプトを確認し、内容の理解を確かめる。生徒には、Mei と Jerry の会話から、意見表明の仕方や反論の仕方などを学ぶことを期待している。

さて、Agree or Disagree およびダイアログのリスニングを踏まえて、次の Let's write about it の段階に進む。ここで生徒は直観的な意見表明から一歩進んで、ダイアログでの議論も踏まえて、自分の意見を英文でまとめる作業を行う。その際、教科書に提示されているサンプルを参考にしてもよい。時間的な余裕があれば、これを受けて、グループ・ディスカッションの時間を設けることも考えられる。それぞれが自分の立場表明をしつつ、他のメンバーからの質問や反論に答えることで、英語での生きたコミュニケーション活動を体験することができるだろう。

最後に、Anything more to say? で、3つの設問が提示されている。これは、宿題として自分の好きな設問を選択して、短いエッセイを書いてこさせるために活用することもできるだろうし、また、生徒の関心とレベルを考慮しつつ、ディスカッションのテーマとして活用することも可能だろう。

(3) Grammar

Grammar では、そのレッスンで導入されている文法項目を2～3点取り上げ、簡単な解説と例文を提示した。また、現行版で採用した<文法コラム>は好評であったので、今回の改訂においても継続することとした。このコラムは、生徒が疑問を抱くようなポイントを取り上げて解説を施したもののだが、文法を単なる暗記の対象とするのではなく、理解して納得することが重要であるという認識に基づいたものである。さらに、学んだ文法項目を活用して、生徒が自分の体験などについて述べる練習をするための問題もページ下に用意したので、こちらもぜひ活用していただきたい。

(4) Exercises

Exercises では、Grammar で学んだ文法項目の理解を確認し、表現活動に結びつける訓練をするため

の練習問題を用意した。さまざまなバリエーションの問題に取り組むことで、生徒の文法理解を確かなものとするために活用していただきたい。

(5) Optional Reading

Optional Reading では、本文のテーマに関連した内容を扱った300語から350語程度の英文を取り上げた。本文の内容を、別の角度から扱ったものや、発展的内容を扱ったものなど、本文の内容をより深く理解する助けとなるはずである。比較的詳しい脚注を施したので、ある程度の英語力があれば、辞書の助けがなくても通読することができるものと思われる。ただし、Optional Reading は発展的な学習内容を含むもので、必ずしも全ての学校で扱うことは想定されていない。学習指導要領で明記されているように、自学自習用の教材としての活用もお考えいただきたい。

5. おわりに

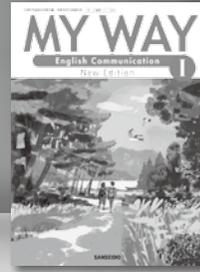
以上、『CROWN English Communication I New Edition』の編集方針と概要について述べてきた。

考えてみるに、教科書はいわば現場に提供された「実験道具」のようなものかもしれない。教科書は「成功の処方箋」ではない。教育の現場において、失敗を恐れずに、新たな試みに挑戦するための実験道具である。クラウン編集委員会としては、実験道具が有効に活用されることによって(あるいは、編集委員会が想定していなかったような独創的な方法で活用されることによって)、英語教育の現場が活性化し、生徒の英語コミュニケーション能力の養成に役立つことを切に望んでいる。

これまでも現場からの実践報告(あるいは「実験報告」と言うべきものか?)を頂戴しているが、今後とも引き続き、ぜひ現場からの報告をお寄せいただければ幸いである。現場での一人一人の「実験」が新たな英語教育の可能性を拓く一歩となるものと確信する。その意味では、「さらにもう一歩先に行く教科書」を実現するためには、そうした「実験」に果敢に挑戦していただけるような現場の先生方の勇気と創意工夫が不可欠である。そのための「実験道具」として、『CROWN English Communication I New Edition』が活用されることを念じてやまない。



『MY WAY English Communication I New Edition』 —教科書分析の4つの論点と2つの視点—



『MY WAY』シリーズ代表著者

関西外国語大学客員教授 **森住 衛**

はじめに — 教科書の分析の論点と視点

2009年公示の高校の学習指導要領による教科書が2013年度から使われはじめて3年が経過し、その改訂がおこなわれました。小論では、『MY WAY コミュニケーション英語 I』(以下、『MY WAY I』)がこの改訂でどのようになったかを説明しますが、単に改訂版『MY WAY I』の紹介に終わらせるのではなく、この機会に、教科書はどうあるべきかのいわば教材論・教科書論を読者諸氏と共に考えられたらと願っています。

教科書分析・考察そして評価する場合は、論点は少なくとも4つあります。この4点とは、題材内容、言語材料、言語活動、教科書構成です。さらに、今回のように改訂版の場合は、何を残して何を变えたかの検討も必要です。いわば、不易(変えてはならない理念)と流行(TPOに合わせて変えた方がよい工夫)の2つの視点からの検討です。小論では、これら4つの論点を縦軸に、そして、2つの視点を横軸にして、『MY WAY I』高校英語教科書論を試みます。

題材内容 — 興味の喚起と思考の促進

教科書本文の題材内容は、教科書の「魂」のようなものです。本文の題材がどのようなものであるかが、生徒の興味を喚起し、考えるきっかけになるからです。『MY WAY』は、本課本文の題材をこの他重要視してきました。それは、これが「題材の『MY WAY I』」と言われてきた所以です。

今回の改訂にあたって、第2, 3, 4, 6, 7, 10課の6つを新しくしました。これは、旧版のこれらの課の題材が不十分だったというわけではありません。どの題材にも意義があり、必ずしも変えなくてもよかったのですが、現在の日本や世界が抱えている問題、とりわけ、日本の高校生に考えてほしい「流行」と

いう点で上記の6課を変えました。

この結果、改訂版『MY WAY I』の題材の全体像は以下ようになります。各課のあとにOP(Optional Reading)としているのは、本課で取り上げた題材やジャンルを補う意味の短めの教材です。このように並べますと、本課とOPの多彩なコンビネーションがご覧いただけると思います。

【改訂版『MY WAY I』の題材】

L.1 A Story about Names (* = 新題材)

西欧諸国や中国、韓国・朝鮮、スコットランド、モンゴルなどの例にみる氏名のいろいろ

OP: Family Names in the World

いろいろな国の姓の数やその特徴

L.2 Messages from Yanase Takashi*

やなせ たかさんの『アンパンマン』にみる自己犠牲を通して、他を幸せにするヒーロー像

OP: Hope for Peace in the Moomin Series

『ムーミン』に込められた思い

L.3 Purposes of the Olympics*

東京オリンピック・パラリンピックを2020年に控えて、オリンピックの由来、意義、問題点

OP: The Slowest Olympian

世界で一番遅いマラソンのオリンピック記録

L.4 Hospital Art*

病院の壁や天井に絵を描く画家の山本容子さんを通して、近年の心をも癒やす病院の様子

OP: Rice Paddy Art

新たな絵画としての「田んぼアート」

L.5 Writing Systems in the World

古代文字、英語のアルファベット、漢字、ハングルなど世界のさまざまな文字の由来

OP: A New Style of Calligraphy

書道家・国重友美さんの「英漢字」

L.6 Washoku — Traditional Japanese Dishes*

和食が世界文化遺産になった4つの理由: 美しさ、素材と料理法、栄養価、行事との関係

OP: Hangi in New Zealand

ニュージーランドのマオリの伝統料理ハンギ

L.7 From Landmines to Herbs*

地雷原をハーブ畑に変えて、カンボジアの人たちと共生をめざす篠田ちひろさん

OP: Clearing Landmines

地雷除去に活躍する探知犬と探査ロボット

L.8 A Mysterious Object from the Past

紀元前にギリシャ沖の海で難破した船から見つかった「近代的な」機器

OP: What is This?

コロンビアの遺跡で発掘された不思議な金細工

L.9 Sesame Street

世界140ヶ国で放映されている「セサミストリート」の理念: 多様性と平等

OP: Our Hero Doraemon

世界中で親しまれている「ドラえもん」

L.10 Heritages of Beatrix Potter*

湖水地方の自然環境と歴史遺産を守った、『ピーターラビット』の作者ビアトリクス・ポター

OP: Weather Forecast for 2050

2050年の環境問題として温暖化現象の予報

この他、巻末の〈Reading〉を○.ヘンリーの‘Makes the Whole World Kin’ (同病相憐れむ) という短編に変えました。○.ヘンリーらしい伏線が敷かれた筋立てと最後のドンデン返しを楽しむことができます。

以上をまとめますと、改訂版『MY WAY I』の題材の特長は、話題の広がりや深さ、地域や時代の観点、老若男女の登場、内容の硬軟の均衡などの多様さです。特に、知的・情的に興味を喚起する題材を心がけました。さらに、ことばに関する題材が多いのも『MY WAY I』の特長です。たとえば、第1課や第5課です。第2課、第4課、第9課、第10課もことばによるメッセージ、ことばの広義としての絵画、人形劇、絵本、物語という点では「ことば」に関係しているとも言えます。「ことば」は、社会科や道徳の題材と区別するためにも、英語教育が扱うべき話題です。この視点を明確に出しているのが『MY WAY コミュニケーション英語シリーズ』の題材観です。

言語材料 — 文法と語彙の認知的指導

言語材料の代表的なものは、音、文字、語彙、文法(広義)、慣用表現の5つです。『MY WAY I』の言語教育観では、言語材料を認知的に、すなわち、生徒に解りやすく教えることを不易な方針としています。言い換えますと、しばしば外国語教育にありがちな「そのまま覚えよう」は避けています。この「習うより慣れる」方式は、母語教育や第二言語教育には適していますが、外国語教育では必ずしも功を奏しません。というより、考えないことを助長してしまいます。ことばのしくみを解りやすく説明すれば、生徒は、英語はおもしろいと思うようになり、英語嫌いはいなくなるのです。以下、文構造 / 文法と語彙の例で説明したいと思います。

まず、文構造 / 文法ですが、基礎から発展までの多彩な工夫をしています。まず、最初の〈Starter〉では、品詞の呼称や自動詞・他動詞を以下のように簡潔に説明しています。

【Starter 1. 文をつくる品詞のいろいろ】

- ① 人やものの名前を表す詞(ことば)
- ② 名詞の代わりをする名詞
- ③ 人やものの動作・状態を表す詞
- ④ 名詞の形や容姿などを説明する詞
- ⑤ 動詞・形容詞・副詞に副(そ)えて説明する詞
- ⑥ 名詞の前に置く詞
- ⑦ 文と文、語と語を接続する詞
- ⑧ 発話の間に投げ入れて感嘆などを表す詞

.....

- *他の人・ものを必要とする動詞
- *自分だけでできることを示す動詞

ここまで丁寧かつ簡潔なことばで文法を解説している教科書は希有だと思います。中学ではわからなかったことが高校で、それも、教科書で解ったというようになればと考えると編集してあります。

また、〈文法のまとめ〉でも認知的理解を試みています。たとえば、現在完了形の3用法については一般には副詞や副詞句で区別をつけていますが、同じ文が、文脈によって、3つの意味用法になることを示しています。そのために、あえて以下のような例を出しています。



We have walked for three hours.
3時間歩いたところだ。(完了)
3時間歩き続けている。(継続)
3時間歩いたことがある。(経験)

この例は、現在完了形は文脈によって完了にも継続にも経験になることを示したのですが、完了形に関する生徒の理解の一助になると考えています。

また、〈文法のまとめ〉では認知的理解の試みとして、〈to不定詞〉の説明に前置詞のtoから導入しています。到達点を示す前置詞のtoと、〈to不定詞〉の副詞用法や名詞用法のtoが暗示する「目的」や「目標」と合っているのです。これは、〈to+動詞の原形〉の「動詞の原形」が名詞概念であるということとも合致しているのです。〈to不定詞〉のtoは前置詞のtoと根源で繋がっているのだとわかることが、認知的指導を目指していることなのです。

語彙に関しては、各課の後に設けた〈Exercises〉に語彙や表現の問題を取り上げ、さらに2〜3課ごとに〈Vocabulary Building〉を設けて、語彙力増強を図っています。たとえば、〈Vocabulary Building〉①では、「品詞の区別をしよう」として、品詞転換を取り上げています。これは「同じ単語がなぜ動詞と名詞になるのだろう」という素朴な疑問に答えるコラムですが、work, name, post, sleep (動詞と名詞), fast, hard, loud, deep (形容詞と副詞)を取り上げています。品詞転換は英文法の根幹に関わるのですが、中高の教科書では看過してきたきらいがあります。また、②では多義語のgetとgiveを使って、動詞のもつ根源的なイメージを解説しています。これも、生徒の「なぜ英語の単語はいろいろな意味になるのだろう」という疑問に認知的に答える工夫です。

言語活動 — Reading & Thinking 中心

言語活動は、一般にListening, Speaking, Reading, Writingの4技能を指しますが、これにThinkingを加えて、5技能になるともいえます。このThinkingは4技能の中核にある技能で、それぞれの技能と結び付いています。「コミュニケーション英語」の教科書はいわゆる総合教材ですので、このいずれも扱っていますが『MY WAY I』ではその中心をReading & Thinkingに置くことを不易としています。これは、以下の理由からです。

- ① Readingは他の技能の基礎になる。
- ② TEFL (Teaching English as a Foreign Language) ではReadingが最も効率が良い。
- ③ Thinkingを促すにはReadingが最適。
- ④ 他の3技能は英語の他の科目でも扱える。

このReading & Thinking中心の理念は、各セクション、各課のあとの言語活動に表れています。まず、各セクションでは、内容理解を促す英語のQ&AやTrue or Falseの他に、〈Read Again〉で本課本文の内容を確認しています。また、課の最後には、〈Comprehension〉として、課全体の要約に関する穴埋めの問題、さらに、その課で印象に残った段落を自分で選んで音読する活動も入れています。この音読をする活動は、自らthinkしないと答えられない活動であり、「考える」活動は外国語学習では欠かせない基本であることを改めて認識できるようにしています。

さらに、いわば「本格的」なThinkingの活動も取り上げました。〈Comprehension〉の最後にある「考えてみよう」です。たとえば、「世界の文字」を扱った第5課では、「今後、世界で新たなlettersが誕生する可能性はあるでしょうか。本文の内容にそって〈ある〉理由と〈ない〉理由の両方について考えてみましょう」としています。これはPISA型読解力の理念を応用したものです。このThinking Practiceは「アクティブ・ラーニング」を進めるのにも役立つはずですが。

また、Reading活動の極めて基本的な技術や対処法も扱っています。たとえば、〈Reading Skill〉です。この部分は旧版からの踏襲ですが、非常に「丁寧な」方法を試みています。たとえば、第1課と第3課では以下のような「スキル」を取り上げました。

【Reading Skill】

第1課 Reading Skill — 動詞と名詞

第2段落 (1.5〜) を読みながら、動詞を□で囲み、名詞に下線をつけましょう。

例：Everyone has a name.

第3課 Reading Skill — 主語と述語動詞

第2段落 (1.4〜) を読みながら、各文の主語を□で囲み、(述語) 動詞に下線をつけましょう。

例：Japan will host the Tokyo Olympics in 2020.

この〈Reading Skill〉では、第9, 10課のパラグラフフリーディングなど、かなりなレベルまで扱っていますが、最初は、前のような確認から始めなければいけないのです。いわゆるslower learnersは、どれも名詞か動詞かわからないからです。

教科書構成 — 全体の流れと各課の要素

教科書構成とは、教科書にどのような内容をどのような順序で盛り込んでいるか、レイアウトはどのようになっているかなど、教科書の体裁です。題材、言語材料、言語活動はいわば教科書の中身ですが、これを入れる器のようなものです。この器をどのようにするのも、教科書の見目からはじまって使い勝手に至るまで大きな影響をもっています。ただ、今回この体裁を旧版とくらべて大きく変えてはいませんので、ここでの説明は確認程度で済ませます。

(1) 教科書の全体の流れ

- 表見返し：風景
- 目次
- 本書の使い方：本文ページ、課末ページ
- Starter①〜④：英語の文のしくみ — 品詞 (10品詞)、動詞 (自動詞 / 他動詞)、語順と文型、句と節
- 辞書の使い方：説明と簡単な活動
- 各課 (cf. 以下の「各課の構成」)
- 文法のまとめ、Sounds、Vocabulary Building
- Activity Corner 各①〜④：2課ごとの配置
- Reading：巻末の読み物教材
- 付録：基本項目一覧表、文法項目一覧表、Idiom List、Word List (A), (B)
- 裏見返し：風景

(2) 各課の構成

- タイトルページ
- 本課本文 (左頁)とセクションごとの活動 (右頁)
- Optional ReadingとQ&A
- 課末の総合練習問題

1点だけお断りしておきたいのは、〈表見返し〉と〈裏見返し〉で取り上げていた「詩」をやめて、風景からイメージした「短い文」にしたことです。詩の扱いが「重い」という実情を反映したのですが、詩がまったく消えてしまったことを残念に思っている先生方もいると思います。

おわりに — 最近の流行のとらえ方

最後にいわばこの3〜4年で浮上してきた英語教育における「流行」について、どのように考えるかに触れて本稿を閉じます。

まず、大学入試にTOEFLなどの外部テストの導入の問題ですが、高校の英語教育は大学入試のためだけにあるのではないので、大々的な関与は避けるべきだと思います。教科書で多少とも意識して取り上げるとすれば「コミュニケーション英語Ⅲ」でしょう。

次に、最近、「アクティブ・ラーニング」が台頭してきました。この学び方は、機械的な練習ではなくて自ら考え、対話などを通して問題提起や問題解決を図るというものですが、このような学びは、協働学習などではすでに実践していて、なにも今に始まったことではありません。『MY WAY I』でもこのような視点を入れています。「新規な」キャッチフレーズが出てくると、それに影響されやすいのですが、しっかりと見据えて対処したいと思います。

最後に、「英語の授業は英語で」の問題です。この方針に沿って教科書の指示文などをすべて英語で書く教科書なども出ていますが、『MY WAY』ではそこまでは重視していません。そもそも、文科省は学習指導要領や解説書においても、「原則として」を付記して「すべて英語でおこなう」とは述べていません。そのようなことは大半の高校では「絵に描いた餅」であることは承知しているからです。しかし、英語の授業なので、英語でやった方が望ましい部分があります。たとえば、挨拶や問題の指示、口頭導入や口頭まとめ、その他、教室英語などです。このようなときには積極的に英語を使うようにすべきでしょう。逆に「英語で」が望ましくない場合があります。それは、文構造 / 文法の説明やことばの大切さ、面白さ、不思議さ、怖さなどの説明のときです。また、題材内容の深い読みやCritical Readingの解説をするときです。なお、学期に一度か二度はAll in Englishでおこなうことがあってもよいでしょう。これは、やればできるというデモンストラーションのためです。

以上の3つに限りませんが、「流行」が出てきたときは、それが果たして本当に新規な方針や活動なのかを考えることと、その実施にあたっては、極端に走らずバランスをとった対応をすることが必要です。

『VISTA English Communication I New Edition』 一学んでみたくなる、魅力ある教科書を目指して



『VISTA』シリーズ代表著者

昭和女子大学 金子 朝子

はじめに

来年の4月から「コミュニケーション英語Ⅰ」の教科書として、改訂版『VISTAⅠ』を多くの高等学校でご使用いただけることを大変嬉しく思います。『VISTA』は、英語の基礎的・基本的な知識やスキルの習得に徹した教科書です。しっかりとした基礎・基本を土台としたコミュニケーション能力の育成を図り、自然とさまざまな人々との共生を国際理解の基本理念として、グローバル時代に適応できる国際感覚や協調の精神を育成したいと考えています。

そのために、時代を超えた新鮮で多様な題材を揃え、教えやすく学びやすい教科書の構成を心掛けています。そして、さまざまなレベルの英語力を持つ生徒の指導に対応できるように工夫した教科書でもあります。

『VISTA』の編集方針

小学校からスタートする、英語を通してコミュニケーション能力を身につけることを目標とした英語教育の最終段階が、高等学校です。高等学校では、学習指導要領に示されているように、ディベートやディスカッションができる英語運用力を目指してはいるものの、特に中学校で学んでおくべき基礎・基本がまだしっかり身につけていない生徒にとっては、まずは、土台を固めることが最終ゴールへの第一歩ではないでしょうか。『VISTA』は、「コミュニケーション英語基礎」の学習内容もカバーする『Ⅰ』から『Ⅱ』へと進む中で、生徒が中身を知りたくなるような題材内容を揃え、英語に触れることが楽しいと思ってもらえる教科書作りを大切にしています。

高校生にとって、日本語でもそうたやすいことではないコミュニケーションを、外国語の英語で行うのですから、英語への興味が高いとは言えない生徒

にとっては、英語は、「どうせ苦手だから」とか「嫌いだから」と、初めから学ぶことを諦めている科目になってしまっているのではないのでしょうか。しかし、単に英語話者と同じ様に話す力が英語のコミュニケーション能力ではありません。ジェスチャーや表情などの言語外の手段を交えて、言い換えたり、説明したりするなどの言語的な工夫をしながら、伝えたいことを相手に英語で伝え、理解してもらう力を指します。もちろん、話す場合だけでなく、書く場合も同様です。絵や図表なども利用して、自分の考えや意見を読み手に理解してもらう力がコミュニケーション能力です。時には日本語を交えてのコミュニケーションが必要なこともあるでしょう。

アジアの多くの国々では、そこに住む人々の母語が異なるため、コミュニケーションをとるためにどうしても共通語として英語を使う必要があります。これから『VISTAⅠ』で勉強する高校生たちが社会で活躍する頃には、英語圏の人々とはもちろん、日本国内外でもアジアの人々とのコミュニケーションが欠かせない時代となっているはずで、英語力は必須です。

教室内とは違う社会でのコミュニケーションは、自分の言いたいことを正確にそして適切に伝え、相手の意見や考えをきちんと理解することが目的です。自分の考えや意見をしっかり持ち、それを明確に伝えること、また、相手の考えや意見を受けて適切なフィードバックをすることなど、言葉を中心としたメッセージの伝達が正しくできるようになれば、いずれはディベートやディスカッションへと繋がっていくはずで、

「生徒の中には、教師の発音やモデルリーディングを聞けばその通りに英語が口から出てくるのに、自分だけでは英語の文章を読むことができない人がいる」という話を先生方から耳にすることがあります。

音読は、英語学習の基本の基本なのですが、例えば、英語を聞いてそれに答える練習に偏ると、自分一人の力では音読ができない生徒が出てしまうのかもしれないように、4技能やそれらを統合した練習をバランスよく配分し、基礎・基本となる事項を練習できるように工夫しています。各課の初めには、導入に使っていただくための1ページを割いたlisteningのセクションがあり、英語の短い解説を聞いて、簡単な質問に答える練習をします。本文は各セクションごとに1ページにまとめられています。内容を理解するreadingの補助としては、新出文法項目を用いた英文にはマークを付け、各課の最後に文法解説があるのに加えて、本文の上部には「Reading Point」が日本語の吹き出しで入っています。テキストの音読CDは、もちろんlisteningやwritingに活用できます。また、内容についての簡単な「Q & A!」はspeakingとwritingの補助として、また、各セクションの脚注にある、本文からアクセントやイントネーション、ポーズ、リエゾンなどに留意したい部分を取り出した練習「SAY IT!」は、発音練習や音読の補助として利用していただけます。

題材内容に興味を持ち、レベルに応じた練習形態を活用して基本的な練習を重ね、少しずつ応用問題にチャレンジしながら成功体験を積むことで、自然に英語への抵抗感が興味へと変わっていくことを期待しています。

改訂版のポイント

●題材について

『VISTA』は、話題性のある題材が豊富なことが、その特徴のひとつです。現行版『VISTA』で扱っている、日本の江戸文化から浮世絵に描かれた楊枝に注目した「Toothbrushing in Edo」や、私たちの暮らしに役立つ自然界からの恩恵を扱った「Ideas from Nature」などに加えて、次のような新しい題材が仲間入りし、さらに新鮮で多様な話題が揃いました。

慶良間諸島国立公園の青い海を扱った「Kerama Blue」、外国人の目からとらえた日本の文化に関する「Cool Japan」、最近日本でも味わえるようになったメキシコ料理の歴史と人気の謎を語る「Mexican Dishes」、意外に知られていない近代オリンピックの移り変わりを知る「The Olympics」、世界中から観光

客が集まるインカの遺跡マチュ・ピチュの不思議と魅力を扱った「Machu Picchu」、そして世界を変えたスティーブ・ジョブズの私たちへのメッセージを紹介する「Steve Jobs」の6つが、新しい題材です。

人々の自然との共生の姿、自分とは違う視点からとらえた発見、世界のさまざまな文化や歴史、ことばの魅力など、単に話題を紹介するだけに留まらず、課末の「Think!」のコーナーでは、フィンランド方式の読み方も体験しながら、さらに内容を深く掘り下げることも可能な題材となっています。

●文法事項について

『VISTAⅠ』では英検3級程度の力を定着させ、『VISTAⅡ』ではそれ以上の力を身に付けることを目指しています。往々にして文法事項は、一つの課の一つのセクションでたった一度扱われる以外、復習の機会がない教科書もあります。『VISTA』では、『Ⅰ』『Ⅱ』を通して必ず前課で扱った文法事項は、次の課でも本文で用いて復習の機会を作っています。

『Ⅰ』のPart 1では、文法の基礎であるbe動詞、一般動詞、疑問文、現在進行形、過去形、助動詞を復習し、Part 2ではSVO・SVOO・SVOC、不定詞、動名詞、現在完了形、受け身、関係代名詞、関係副詞、形式主語、分詞構文、仮定法過去を扱います。「コミュニケーション英語Ⅰ」が学習指導要領で必修科目に指定されたため、高校で学ぶべき文法事項は『Ⅰ』に全て含まれていることになります。

繰り返しになりますが、『VISTA』は、基礎・基本を固めることを高等学校での英語学習の第一歩と考えています。そこで、ことばの規則を学ぶために各課の最後にある「STUDY IT!」のコーナーは、説明が過多にならないように、できるだけ基本に絞って解説してあります。基本の説明が理解できたかどうかは、「DRILL」で確認します。ご指導の先生方には、こうした活動の中から適宜必要なものを選択してご活用頂きたいと思えます。「STUDY IT!」の狙いは、生徒に「できた!」「わかった!」という成功感を持ってもらうことです。

また、学んだ文法の最重要ポイントを何点かずつまとめて確認できるように、文法のまとめのコーナーを「Look and Learn」として、各課とは別割りで置きました。ここでは、そこまでに学んだ文法構造等をまとめて、総合的に学ぶことができます。

●言語活動について

各課で学習する文法事項を中心とした言語活動は、本文の最後にある「PRACTICE!」で扱います。

はじめの第1問はlisteningです。ターゲットの文法事項が使われている簡単な英語の対話を聞きながら解答します。ちなみに問題の英文を確認したい場合には、テキストの巻末に英文が掲載されています。易しい英語でまとめられていますので、readingに加えてspeakingやwritingの産出活動にもぜひご活用ください。

続く第2問以降も、その課の文法事項が焦点です。問題の指示文には、例えば「対話してみよう」とか「書いてみよう」などとありますが、もちろん、生徒のレベルや必要性に合わせて、指示以外のスキルの練習にも使っていただければ、より学習の定着を図ることができるでしょう。英語で対話して、話すこと、聞くことを練習し、次にペアーごとにそれを一枚の紙に書き、互いに書かれた英文を読み合っって誤りのチェックをすることもできます。英語で書くことをまず行った場合には、同じ言語材料を用いて、書いたものを見ずにペアーで話したり聞いたりする練習を加えれば、4技能を統合した活動となるでしょう。

「PRACTICE!」とは別に、「USE ENGLISH!」「ENJOY COMMUNICATION!」「READING SKILL」の言語活動コーナーもあります。

「USE ENGLISH!」では、例えば、説明する、ほめる、主張する、などのように、文法には関係なく言語の機能に注目して、特にspeakingやwritingの産出活動の練習を行います。ここでは、自分の気持ちや考えを伝えるために、英語を発話したり書いたりする練習を通して、特に、それぞれの言語の機能を達成するために用いられる慣用表現を使えるようにすることを目的としています。

「ENJOY COMMUNICATION!」も、文法に焦点を置いたコーナーではありませんが、ここでは言語の機能ではなく、例えば、レストラン、買い物、道案内などの場面別によく用いられる会話の練習を、慣用表現を中心に学びます。短い時間でも行える基本的なコミュニケーションの練習ですから、授業の導入時や次の話題に移る前など、頭の切り替えをしたい時などにも活用していただくことをお勧めします。

「READIGN SKILL」は文字通り、英文の意味を読み取るためのコツをまとめたコーナーです。ここで

は、英文を読む際に、パズルのように単語の意味を拾って、それらを勝手に繋ぎ合わせて発信者の伝えたいことを推測するのではなく、文の基本構成(何がどうした)、文をつなぐ語や語句のかたまり、などに留意して、パラグラフ単位、また、それ以上の少しまとまった文章が伝える内容を、適切にとらえるコツを学びます。

このように、『VISTA』では基本的な4技能をさまざまな方法で身につけることができるように工夫をしています。そして、単にlistening、speaking、reading、writingの4技能をバラバラに練習するだけに終わらず、それらを統合した基礎的な力を、生徒のレベルに合わせて身に付けてもらうことを目指しています。こうすることで、次第に4技能プラス1、つまり、「人とコミュニケーションを行うことへの興味」を持ってもらうことが大切だと考えています。

●語彙学習について

テキストの本文や文法解説の例文に加えて、活動を行う各課末の「USE ENGLISH!」で使われる機能表現についても、同じ表現でも、もっといろいろな表現が欲しいと思われる先生方も多いことでしょう。それにお応えして、現行版と同様に、「USE ENGLISH!」の表現集を巻末に掲載してあります。本文では使われていない新出単語も入れましたので、ここを活用していただくことで語彙を増やすことにもつながります。

改訂版には、さらに語彙に興味を持ってもらうための新しい工夫を加えました。それは各課のセクションごとに語彙を一つ取り出して、その語に関する豆知識を提示したことです。語彙力は「英語がわかる」ためには特に重要です。語彙力には、意味は知っているが適切に使うことはできない受容語彙と、意味を知っていて適切に使うことのできる発表語彙の2種類があります。その両方の力を付けるためにも、まずは最低限、その単語の意味が分かること、つまり受容語彙を増やすことが大切です。とは言っても、必要な単語の意味をすべて丸暗記して記憶に留めることは、たいへん難しいことです。自ら何かに「気づく」ことが、学習には欠かせないからです。英文の構造や慣用句の学習に関しても同様のことが言えるでしょう。英語のインプットをさまざまに受ける中で、「へー、そうなんだ」と思うようなことがない

と、いくら英語を聞いたり読んだりしても、ただ頭の中を通り過ぎるだけで記憶として残らず、学習が起りにくいと考えられています。こうした観点から、より語彙への関心を持ってもらうために、「WORD WATCH」のコーナーを新設しました。このコーナーの目的は、英単語への「気づき」を促すことです。語源や日本語化したカタカナ語との意味の違いなど、「へー」と思うような短くて簡単な解説を楽しんでもらえることを期待しています。

おわりに

文部科学省は、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境作りを進める中で、小中高등학교を通じた英語教育改革を計画的に進めるため、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を平成25年12月に発表しています。その骨子は、小・中・高の一貫した学習到達目標を設定して、英語によるコミュニケーション能力を確実に養うこと、そして、日本の伝統文化・歴史を重視した、日本人としてのアイデンティティに関する教育を充実することです。コミュニケーション能力を養う方策として、英語で教えることも始められています。しかし授業では、先生方のご指導を生徒に正確に理解してもらうことが必須ですから、まずは、すべての指導をすぐに英語で行うよりは、定型表現を使いながら、少しずつ英語での指導を増やして行くことが得策だと思います。『VISTA』で学ぶ生徒には、日本語を少し交えてでも、伝え合うこと、コミュニケーションを取ることの楽しさを知ってほしいと考えています。

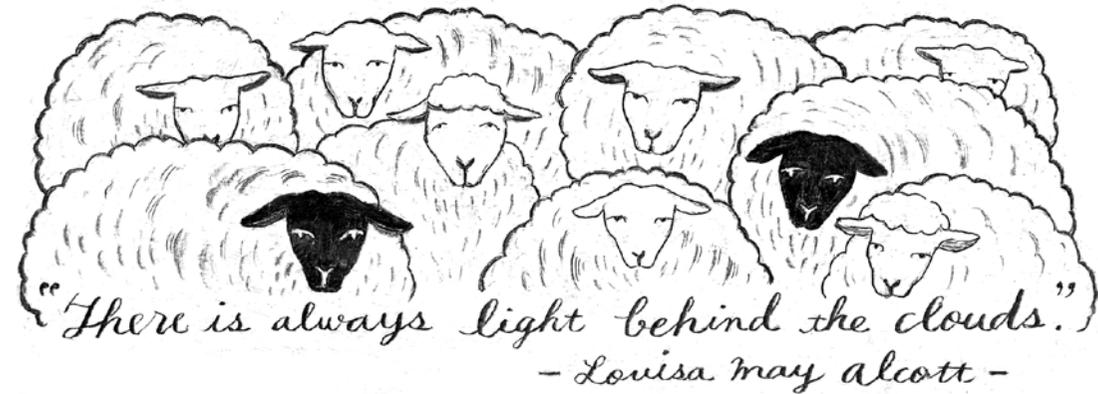
また、「文部科学省教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」(平成27年8月)では、外国語で育成すべき資質・能力の「三つの柱」とし

て、①何を知っているのか、何ができるのか(個別の知識・技能)、②知っていること・できることをどう使うのか(思考力・判断力・表現力等)、③どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るのか(学びに向かう力・人間性等)、を挙げています。これからの英語教育は「何を教えるか」だけでなく、「生徒がどのように学ぶか」「どのような力が生徒の身につく、その力をどのように使うのか」を問いながら進めていくことになるでしょう。

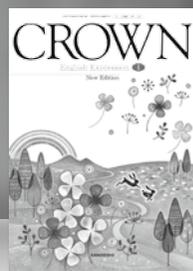
日本とは異質な文化や言語、そしてまた、そこに住む人々の生活や考え方に対する抱擁力をつけることは、日本の若者の心をグローバル化することに繋がります。その第一歩は、外国語である英語への抵抗感を無くすことではないでしょうか。

週に5、6時間の授業だけで、すべての生徒が学習指導要領にある事項をマスターすることは至難の技です。授業では、英語学習への取り組み方や英語の基礎・基本をしっかり学び、授業外でも、生徒が予習・復習に加えて英語に触れる時間を自主的に持てる仕組みが欲しいものです。ショック療法的に、英語でしかコミュニケーションがとれない近隣の英語話者の方や留学生等を招いて、交流プログラムを授業の一環として経験してもらうことなども効果的かもしれません。どのような方法を取るにしても、生徒たちが英語学習に興味を持ち、成功体験を積んで、「やれば自分にもできる」という自信を持ちながら、自発的に英語を学んでくれるような授業運営が大切です。

『VISTA』で学ぶ生徒の英語力の幅は、かなり広いのが現状です。生徒の英語力の発達に応じて、先生方が様々な味付けをしていただける教科書として、改訂版の『VISTA English Communication I New Edition』をご活用いただければ大変嬉しく思います。



『CROWN English Expression I New Edition』 —文法の学習を表現力の育成へ—



元電気通信大学 松原好次

はじめに

グローバル人材育成の緊急性がかまびすしく耳に入ってくる昨今、英語教育に求められるものも大きく変容しています。そのような流れの中で、『クラウン英語表現 I (CROWN English Expression I)』(以下、『クラウン表現 I』)の改訂版の編集が行われました。「英語によるコミュニケーション能力育成」というスローガンを耳に留めながら、「クラスサイズに悩み、大学入試への対応に追われる教育現場の実態」を見つめて行う編集作業は、必ずしもスムーズにいったわけではありません。しかし、スローガンと現場の実態に横たわる溝を絶えず意識し、両者の架け橋となるべき「伝える能力育成のための教科書作り」を模索してきた結果、『クラウン表現 I』の改訂が終了しました。本稿では、改訂の基本方針、主な変更点、改訂版の活用方法について述べたいと思います。

改訂の基本方針

以下の3点を改訂の基本方針としました。

1. 重要文法項目の記述を精密化する

内容の濃い表現を行う(つまり、深く伝える)ためには相応の言語形式が不可欠であるという観点から、重要文法項目の記述を格段と詳しく改める。

2. 文法学習と表現活動の緊密性を強化する

文法・語法の学習過程で、生徒一人ひとりにとって興味・関心のあることを適切な場面設定の中で表現する経験の積み重ねが重要だと考え、いくつかの点で、形・意味・使用を統合するための改善に取り組む。

3. 高校生の心に訴える題材を選定する

文法・語法の学習は、ややもすれば味気ないものになりがちなので、生徒の知的好奇心を掻き立て、しかも芯のある題材の精選を心がける。

主な変更点

1. 「改訂の基本方針 1」に則り、以下の変更を加えました。

現行版は『クラウン表現 I』で文法の基礎編、『クラウン表現 II』で応用編となっていますが、今回の改訂にあたり、『クラウン表現 I (改訂版)』で文法の重要項目を10のレッスンで詳細に扱うこととしました。(『II』では、重要項目の復習とその他の文法項目を扱う予定です。また、機能表現およびスピーキング<Speech, Presentation, Discussion, Debate>も『II』で扱うこととなります。)

たとえば、現行版『クラウン表現 I』Lesson 2 (見開き2ページ)で扱っていた時制の項目を、改訂版では以下のように格段と詳しく改めました(表1参照)。

表1 『クラウン表現 I (改訂版)』 Lesson 1 : 時制

| |
|---|
| 時制① (A) 現在を表す① : 現在形 (B) 現在を表す② : 現在進行形 (C) 過去を表す : 過去形・過去進行形 |
| 時制② (A) 未来を表す① : will ~, be going to ~ など (B) 未来を表す② : 未来進行形 (C) 現在形・進行形の注意すべき用法 (D) 未来を表すその他の表現 |
| 時制③ (A) 現在完了形① : 完了・結果 (B) 現在完了形② : 経験 (C) 現在完了形③・現在完了進行形 : 継続 |
| 時制④ (A) 過去完了形・過去完了進行形 (B) 未来完了形・未来完了進行形 (C) 未来のことで使われる現在完了形 |

この変更によって、表現上の微妙な差異に関する明示的な説明が可能になりました。一例として時制②の(B)では、未来進行形を以下のように説明しています。

- ① I **will be surfing** in Hawaii this weekend.
・ will be ~ing 「~しているだろう」[未来の基準時での動作の進行]
 - ② This train **will be making** a brief stop at Hiroshima Station.
・ will be ~ing 「~することになっている」[個人の意志と無関係に起こる予定]
- ◆ When **will you be leaving?** (いつ出発することになっていますか) [丁寧]
cf. When *will you leave?* (いつ出発するつもりですか)

2. 「改訂の基本方針 2」に則り、以下2点の変更を加えました。

① 「Start-Up Grammar」の新設

見開き左ページの「導入文」に続き、右ページに「Start-Up Grammar」という解説のページを設け、本課で扱う文法項目がスムーズに導入できる手立てを施しました。英語で表現するにあたって、なぜ、特定の言語形式が使用されるのかを分かりやすく説明してあります(例:なぜ能動態でなくて受動態、動名詞でなくて不定詞なのか等)。

たとえば、前述のLesson 1 (時制)に付された「Start-Up Grammar」には、過去形と現在完了形の違いがイラスト入りで分かりやすく提示されています。

- (1) I **lived** in Nara ten years ago.
* 過去形⇒遠くに離れた距離感を表現する(時間的に離れているイメージ)
- (2) I **have lived** in Nara for ten years.
* 現在完了形 ⇒ <have + 過去分詞>で、過去の出来事を現在と関連付けて述べる(過去に起きたことが、現在まで延びてきているイメージ)

② 「Express Yourself」の新設

さらに、現行版『クラウン表現 I』で2レッスンおきに置かれていた「Speaking」を「Express Yourself」と改称し、各課の末尾に配置しました(表2参照)。ここで生徒たちは、本課で学んだ文法項目と「発表に必要な表現」を活用して、スピーチやプレゼ

ンテーションの原稿作成をすることになります。Listen→Write→Speakという有機的な流れを通じた表現力の育成がねらいです。

3. 「改訂の基本方針 3」に則り、以下のように新題材を投入しました。

現行版『クラウン表現 I・II』では題材選択について、「可能な限り世界各地の文化・風俗習慣・言語・科学技術・自然・地理・歴史などに題材を求めると同時に、日本の事物についても英語で表現する際に必要と思われる題材を選ぶ」という基準を設けました。

その方針を堅持し、本課では世界各国関連の題材として、フィンランドの教育事情を取り上げました。また、Express Yourselfにも、世界各地に関わるトピックを意識的に挿入しました。たとえば、異文化理解の観点から『Cultural Stereotypes』や『A School in New Zealand』など新規の題材を導入しました。

一方、日本については、浮世絵師の歌川広重、2020年東京オリンピックなどを本課の題材として新しく採用しました。伝統的事物と並んで、同時代的要素を含むトピックも意識的に配してあります。たとえば、『Medical Technology』『An Eco-friendly School Festival』などです。このような題材が高校生の知的好奇心を刺激し、表現活動への移行をスムーズにしてくれるものと確信しています。

語彙のレベルでは、日常生活において使用頻度の高い語・句・連語だけでなく、生徒の向上心を掻き立てるため、多少難易度の高い語句も挿入してあります。現行版掲載の相対性理論、ロボット工学、レ

表2 『クラウン表現 I (改訂版)』: Express Yourself

文法の重要項目を詳細に10課→各課のExpress Yourselfで表現活動(その課の文法項目+発表に必要な表現)

| | | |
|-----------|-----|---|
| Lesson 1 | 時制 | A School in New Zealand (挨拶/紹介) |
| Lesson 2 | 助動詞 | Nishikori Kei (情報源・出典) |
| Lesson 3 | 受動態 | Cool Japan (図表の説明/分類) |
| Lesson 4 | 不定詞 | An Eco-friendly School Festival (計画の概要) |
| Lesson 5 | 動名詞 | World Heritage Sites (理由/結論) |
| Lesson 6 | 分詞 | Cultural Stereotypes (事実・情報の伝達) |
| Lesson 7 | 比較 | Mars (詳細な説明/発表のまとめ方) |
| Lesson 8 | 関係詞 | Antoni Gaudí (経験の報告/発表のまとめ方) |
| Lesson 9 | 仮定法 | Medical Technology (考え・感想の求め方) |
| Lesson 10 | 接続詞 | Hoshino Michio (自分の意見の述べ方) |

アース、風力発電、二酸化炭素排出量などといった語句の他に、PISA、CT、MRIなどの新しい語句も解説や設問の一部に加えてあります。

改訂版の活用方法

改訂版『クラウン表現Ⅰ』による表現力向上のための活用方法を、具体的に述べたいと思います。

1. 「Start-Up Grammar」で文法学習と文脈(使用場面)の絡み合いに目を向ける

新設の「Start-Up Grammar」では、この課で学ぶ言語形式(文法項目)が、どのような場面で実際に使用されるかを分かりやすく説明しています。たとえば受動態を学ぶLesson 3には、「なぜ受動態を使うのか」という問いかけの後、以下の例文が提示されています。

(1) Look at that picture. Picasso painted it.
[that picture ≠ Picasso]

(2) Look at that picture. **It was painted by** Picasso. [that picture = it]

そして、情報の流れ(旧情報→新情報)から考えて、

(1)より(2)のほうが自然であると解説しています。

「Start-Up Grammar」を起点として、次のページから受動態に関する例文とExercisesが詳細に扱われます。受動態の肯定文・否定文・疑問文・Wh-疑問文、完了形・進行形・助動詞を含む受動態、by以外の前置詞を用いる受動態、SVOO・SVOCの受動態、get・句動詞・sayなどの受動態といった具合に、現行版と比べ格段と網羅性が大きくなっています。

しかし、単なる文法解説にとどまらず、「なぜ、どのような使用場面で、どのような働き(機能)をもって、この言語形式が使用されるのか」という観点から、さまざまな工夫を施しました。解説ページ内に置かれた「コラム」を、その一例として挙げることができます。「過去形・進行形による丁寧表現」と題されたLesson 1(時制)のコラムには、以下の例文が記されています。

(1) I **wonder** if you can help me. (普通)

(2) I'm **wondering** if you can help me. (少し丁寧)

(3) I **wondered** if you could help me. (かなり丁寧)

(4) I **was wondering** if you could help me.

(最も丁寧)

そして、進行形や過去形がポライトネス表現と深

く関わっていることを述べています。言語形式の提示にとどまらず、その文法項目の使用される場面や機能を絶えず意識させようとしているのです。

2. 「Express Yourself」でスピーチとプレゼンの構成を把握する

前述のとおり、改訂版の『クラウン表現Ⅰ』では、各課の末尾に「Express Yourself」を見開き構成で10レッスン配置してあります。ここでは、Lesson 9(仮定法)の末尾に置かれた『Medical Technology』を例に、「Express Yourself」でスピーチの基礎作りがどのようになされるかを確認することにします。

(1) **Input** : 新しい医療技術の可能性についての一節を聴きながら、内容的に重要な語句を空所補充する。Lesson 9の文法項目である仮定法はスクリプトに含まれているが、Inputでは文法形式に焦点を当てず、あくまでも内容に集中させる。

(2) **Output** : 音声で得た情報を基に、そのトピックについてのスピーチ原稿を用意する。(1)で得た情報を空所に補充するだけで完結する形式。このパラグラフには、仮定法を含んだ文が使用されている。また、後述の「発表に必要な表現」と「つながり言葉」も使用されている。空所補充の後、生徒たちは末尾に置かれた文(I hope that _____)の下線部を考える。

なお、Input / Outputでは、Focus on FormやDictoglossという指導法の活用も可能である。

(3) **Tool Box** : 「発表に必要な表現」と「つながり言葉」が例示されている。このレッスンでは、「聞き手の考え・感想を求める」(What do you think about ...? など)と「希望を述べる」(I hope that など)、および「強意・驚き」を表すつながり言葉(In fact, など)が例文で示されている。

(4) **TRY** : 英文で設定されたタスクに応じて原稿作成がスムーズに進むよう、以下のような展開上のヒントが付されている。

①**導入** : 社会における科学技術の役割について、どう思いますか。

②**メインアイデア／具体例** : ～は…において重要な役割を果たしています。～のおかげで、私たちは…することができます。

③**結び** : ～が、ますます発展することを期待しています。

上記の日本語に該当する英語表現は、Outputや「発表に必要な表現」「つながり言葉」で提示済み。また、原稿作成時に役立つように、Words & Phrasesというコラムも置かれている。さらに、巻末付録⑦の語彙集を活用することもできる。

以上の手順に従って、『Medical Technology』の「内容」に注目させると同時に、Lesson 9で扱った「言語形式(仮定法)」が、医療技術の可能性を語るという文脈で使用されていることに気づかせることができます。さらに、スピーチ(あるいはプレゼン)の構成(論理展開法)が明示されていますので、学習者は大きな負担なくスムーズに到達目標の表現活動(writingとspeaking)に移行できます。

3. その他の手立てを活用して表現力を高める

(1) 本課導入文

まず各課の導入文を書き改めるとともに、学習のターゲットとなる言語形式を傍注として一目瞭然にしました。導入の段階で視覚的に確認したうえ、音声を通じて、あるいは、その後のStart-Up Grammar、文法説明、Exercisesを通じて、文法項目の定着を図りたいからです。

(2) 名言コラム

今回の改訂にあたり、高校生の心に響くと思われる名言を新たに精選しました。暗記暗唱するように勧めただけなら幸いです。外国語学習において暗記暗唱がいかに重要であるか、そして表現力養成の出発点としていかに効果的であるかが、見直されて然るべきだと考えるからです。

* I have not failed. I've just found 10,000 ways that won't work. (Thomas Edison : 時制)

(3) 各セクション末尾のTRY

本課見開きの右下に付されているTRYには、Show and Tell式の発表、下線部補充形式によるペアの会話や自己表現活動が配されています。本課で学習した文法項目を実際に使用することによって、表現力を高めることができます。たとえばLesson 9(仮定法①)のTRYを見てみましょう。

* If I had a time machine, I would like to meet Leonardo da Vinci because I would like to ask him who Mona Lisa really was. (下線部分を言い換えて話しましょう)

生徒は、「タイムマシーンに乗って会いに行きたい

人物」について自己表現を求められます。ペア／グループでの発表の後、質疑応答に展開することによって、「授業を実際のコミュニケーションの場面にする」ための契機としてTRYを活用できます。

(4) 文法のまとめ(解説編と問題編)

解説編には「日英語の発想のちがひ」とか、「くだけた表現とていねいな表現のちがひ」などが問答形式で記されています。また問題編には、本課で学んだ項目が着実に身につくように、精選された練習問題が付されていますので、文法・語法の定着に活用できます。その際、生徒はヒントを手がかりにして、英語で表現できる実感を得ることが出来ます。

・「禁煙エリア」→「喫煙できないエリア」(関係副詞 where)

(5) 付録① 各課の基本例文

巻末に付けられた「各課の基本例文」には、本課で扱いきれなかった用法も含めて、多様な例文が提示されています。英語・日本語が左右に並置されているため、暗記暗唱がしやすくなっています。そのうえ、簡潔な説明が付されているため、文法項目の復習・定着に適しています。

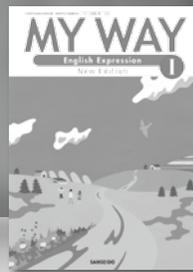
・ **Behind the church stood** a red brick building. (教会の後ろには、赤いレンガの建物が立っていた。)[「場所・方向」を表す副詞句が文頭に出たことによる倒置]

おわりに

さて、改訂の基本方針、主な変更点に続き、活用方法について述べてきました。改訂版『クラウン表現Ⅰ』は、文法の学習を表現力の育成に結びつける様々な工夫が凝らされた教科書に生まれ変わりました。また、現行版に比べて文法の記述が詳細になったり、難易度の高い語彙が使用されていたりしているものの、生徒が少し背伸びをすれば、spoken Englishとwritten English双方において高度な表現力を獲得できる教科書となっています。

なおまた、この教科書と同時に、新しく全面改訂された『クラウン総合英語(3版)』が刊行されます。教科書と同じ例文が採られており、より詳しい解説が施されています。教科書と同様にぜひ読んでいただけたら幸いです。

『MY WAY English Expression I New Edition』 —より分かり易く、使い易く、活動的に—



同志社女子大学 飯田 毅

はじめに

『MY WAY English Expression I』の編集方針は、生徒一人ひとりが言語能力と言語感覚を磨き、明確な論理展開の方法と表現力を培い、将来、諸外国の人々とコミュニケーションが取れ、ひいては親密な人間関係を築いていける態度を育成することにあります。今回の改訂にあたり、その編集方針を継承し、さらに内容を充実させることにしました。改訂の特徴を以下3点にまとめることができます。

- (1) 文法説明を工夫することで、生徒が英語の仕組みを理解し、英語と日本語の表現の共通点や相違点に気づくようにする。
- (2) 先生と生徒にとって、本書をより使い易くする。
- (3) 生徒自身の活動的な言語活動を支援する。

本稿では、その改訂のポイントを中心に説明し、現行版から引き継いだ点についても改めて述べます。

3つの改訂ポイント

1. 分かり易い文法説明、言語の仕組みに気づく

外国語で表現できるためには、まず外国語の仕組みである文法を理解する必要があります。往々にして、生徒は文法に対して苦手意識を持っています。生徒にとっては、確かに英語の文法は難しく思えるのかもしれませんが、しかしながら、英語の文法規則が日本語より複雑で、数が多いと言うわけではありません。むしろ、生徒がそのように感じるのには、日本語という母語の文法を無意識のうちに身につけているために、外国語の文法を意識的に学ぶことが複雑に感じられるためではないでしょうか。通常、子どもは母語の文法を小学校以前に身につけますが、無意識に身につけた母語の文法を説明することはできません。外国語学習の長所として、外国語を意識的に学ぶことで、その言語の仕組みを理解できることが

あります。その発展として、無意識に身に付いた母語の仕組みも理解できるようになります。近年の英語教育の問題の一つに、いたずらにコミュニケーションを重視するあまり、生徒が外国語の仕組みを理解する重要性が誤解され、ただ単に意思が通じればよいという短絡的な考えが流布している点があります。

本教科書では、初版から上記の問題点に鑑み、生徒が英語の仕組みを分かり易く理解できるように配慮してきました。今回の改訂では、理解がさらに深まるように分かり易く説明し、生徒自身が英語の仕組みに気づけるように工夫しました。その代表例を順に取り上げて説明しましょう。

本教科書では、Lesson 1の前にGet Ready!があります。この課の目的は中学校英語から高校英語への橋渡しです。改訂版では、この課を①英語の基本的な要素と②英語の基本的な語句の並べ方の2つに分け、「英語の冠詞の基本」と「英語の語順の基本」を新たに加えました。「英語の基本的な要素」では、冠詞の基本を新たに取上げています。定冠詞theの理解は、生徒には難しいという理由で、中学校ではその本質的説明を避けられる傾向があります。確かに、細かく見ると、様々に分類される冠詞の用法をすべて教科書で取り上げ、説明するのは不可能です。しかし、本教科書では最も基本的な用法をイラスト付きで以下のように簡潔に説明しています。「話し手と聞き手が特定した名詞にtheをつける」、つまり、話し手と聞き手が特定できた場合はthe dogとなり、特定できない場合はa dogとなる、ということです。この説明は読解の場面において「書き手と読み手の特定した名詞にtheがつく」という説明にも応用できます。即ち、英文を読んでいく中で最初にa dogと出てきた場合、読み手は不特定の犬と理解し、次に同じdogが出てきた時には、読み手は特定できたthe dogと理解するという意味です。この

説明は、他の説明より応用が利く、という点でより汎用的な説明と言えます。本改訂版では、このような汎用的な説明を心がけました。

「英語の基本的な語句の並べ方」では、英語の代表的な5種類の文型の前に、新たに「基本的な英文の作り方」を加えました。日本語の語句の並べ方と対照させながら、英語の基本は、<「～は/～が」+「～する/～である」+「～を/～に」+ (どこで) + (いつ)>、と説明しています。既に中学校で学んできていることですが、生徒が改めて、英語の最も基本的な文の型に気づくことにねらいがあります。

Get Ready!の目的には、生徒が重要な文法用語の意味を理解し、使えるようにすることも含まれています。現行版では、文法を説明する言葉である文法用語の基本を取り上げ、生徒が理解できるように解説しました。改訂版においても、本教科書が取り上げるすべての文法用語の説明を見直し、分かり易く解説しました。主語、動詞、目的語、補語、自動詞、他動詞等の文法用語の理解は、英語能力とは直接関係しません。しかし、英語の仕組みを理解する際に必要不可欠な用語です。また、日本語という言葉を用いるような文法用語を使って捉え直すこともできます。さらに、この用語は、将来、他の外国語を学習する際にも役立ちます。大切なことは、生徒が文法用語を単に理解するだけでなく、生徒が英文を作る過程で、実際に使えるようにすることにあります。このような用語が使えるようになると、生徒は英文を作る過程で自分の英文を客観的に見つめ、分析する力を向上させ、より良い表現に導けるようになります。このような能力をメタ言語能力と言います。私の研究では、メタ言語能力は英語能力と関係してきます。文法用語は英語の文を分析し、正しい表現を導くための道具と言ってもよいでしょう。高校生は複雑な文法用語を知る必要はありません。生徒は本教科書に取り上げられている基本的な文法用語を理解し、自分自身で英文を作る際の道具として使用できるようになることが大切です。適切で基本的な文法用語を身につけることは、メタ言語知識を増やすこととなります。メタ言語知識を使えるようになると、分析力が高まり、表現力を向上させる力であるメタ言語能力を伸ばすこととなります。私は英語を学ぶ過程の中で、このようなメタ言語知識を増やし、実際に使えるようになることが言語教育の大切

な役割であると考えています。

次に、本課本文中に関して大きく変わった点はPointの扱いです。改訂版のPointでは、目標となる文法事項の説明をできるだけ短く、文法事項の本質をできるだけ分かり易く説明しようと心がけました。例えば、Lesson 1のPoint 1の説明は、現在時制を扱っています。それを「現在形は、現在の習慣や状態、長期にわたる事実などを表します」と説明しています。この説明は現在形の本質を端的に述べています。ご存知のように、現在形はさまざまな説明が可能です。私達著者は、教室で教える先生にとって、教え易く、そして、生徒が学び易い説明を心がけました。「長期にわたる事実」の例文として、My brother works for a sportswear company. があります。この英文は、「私の兄は、(短期間ではなく長期にわたり)スポーツウェアを作る会社で働いている」という意味です。この長期をさらに拡大していくと、The Olympic Games take place every four years. 「オリンピックは、4年に一度開催される」という「一般的事実」になります。さらに長期を拡大していくと、本書では扱いませんが、The sun rises from the east. のような「真実」という分類に至ります。この「真実」という分類は「長期にわたる事実」の分類に含まれます。言い換えれば、後者の方が、より汎用的な説明であると言えるでしょう。このように、一つの文法事項についてさまざまな説明が可能ですが、本改訂版では、できるだけ高校生が文法事項の本質を理解できる汎用的な説明を心がけました。この説明と授業での先生の説明を通して、初めて生徒は英語の文法に興味を持つようになるでしょう。もちろんPointの説明がすべてうまくいったわけではありません。一例として、紙面の制約により、助動詞の課ではPointの解説の中だけでは本課で扱うすべての助動詞の意味を説明できません。この点については、教室で先生の説明にお願いせざるを得ません。

最後に、生徒が英語の仕組みに気づくことができるように、現行版のGrammar for Communicationに加えて、改訂版では、Appendixに日本語と英語の表現の違いに関するコーナーを設けました。英文法を学んで行く過程で、生徒は英語と日本語の関係を機械的に捉えてしまう傾向があります。そこで、高校生が犯し易い誤りを短くまとめました。「語彙編」と「表現編」の2つに分けられ、生徒は実際に問題を解きな

がら学べます。語彙の例を取り上げてみましょう。英語では通じないカタカナ語(例: コンセント、マンション)や使い方が異なるカタカナ語(例: サイン)が取り上げられています。いずれも、一般の人も誤解しやすい代表的な例です。日本語と英語では言い方が異なる例として、濃いコーヒー(strong coffee)があります。表現編には、日本語では主語が省略される場合、日本語とは違う語句を主語にする場合、そして、無生物主語の場合が挙げられています。いずれも身近な例です。このような英語と日本語の基本的な表現の違いを学ぶ中で、生徒は両言語に対する意識を高め、言語そのものに対する興味を持つようになるでしょう。

2. 暗誦し易い例文と練習問題

上記の文法事項の説明とともに改訂の大切な要素が、実際に使われる例文の見直しです。今回の改訂では、生徒の記憶に残り易いようにすべての例文を見直し、生徒にとって難しそうな文の語句は書き換え、良質な文を提示しました。現行版では、当初生徒が例文を読んだ時に、内容をイメージし易いように心がけました。その結果、やや長い英文も含まれてしまいました。教室では、生徒はこの例文を何度も読み、時には暗誦します。その際、何の文脈もなく無意味な文を覚えるほど生徒にとって辛いことはありません。改訂版では、生徒が遭遇すると思われる日常的な場面を想定し、発音し易い単語を使い、可能な限り短い英文にしました。

現行版の時から本教科書では、生徒が例文を覚え易いようにレッスンごとに話題(topic)が設定されています。一例を挙げると、Lesson 1ではスポーツが話題になっています。話題によって例文一文ごとに緩やかな背景が与えられ、生徒が暗誦する際に記憶に残るようになります。話題はこの課全体の文脈に相当するものだと言っても良いでしょう。明確な文脈をもった文章は、Grammar in Useで扱われています。生徒は設定された日常の話題の中で良質な例文を音読しながら、記憶に留めることができます。

練習問題に関しても一文ずつすべてを吟味し、文法事項との関連を見直しました。全体の練習問題の数も増やしました。日本語を参考にして英文の空所を補充する問題では、本教科書を使う生徒にとって、難しいと考えられる語彙については英単語をヒントとして与えました。

3. より活動的に

本教科書では、従来から各Lessonの最後にUse!というコーナーを設け、実際に生徒自身が英文を作り、使えるように設計されています。Use!は、生徒自身が目標となる文法事項を使って、自己表現する場です。Use!で生徒が作る英文は、基本的に単文です。ペアでのやり取りも一回だけです。文法事項は実際に発話せずに頭で理解することができます。しかし、生徒が使えるようになるためには、生徒自身が伝える内容を考え、英文を作り、その英文を発話する体験が必要になります。また、教師は生徒の作った英文を読むことで、目標となる文法事項の理解度を確認し、再度指導することができます。このような循環を通して、教師は生徒の理解度を向上させ、正しく使用できるように援助できます。

改訂版では、このUse!に加えて、巻末にCommunication Activity集を設けました。このActivityの目的は、生徒のコミュニケーション能力の基礎を培い、複数の文法事項を使って、生徒同士が複数回のやり取り(interaction)をすることにあります。この活動はすべて対話形式です。クラスメートと英語を共に学ぶという協同学習のねらいもあります。ただ単に対話するだけでなく、最後にその対話を報告(reporting)することで、教師は生徒の活動状況をモニタリング(monitoring)し、生徒の文法事項の理解度に応じて補足修正できるというフィードバック(feedback)機能を持たせています。

本教科書は、1) 時制、2) 助動詞・受動態、3) 不定詞・動名詞・分詞など、4) 比較・関係詞、5) 仮定法・話法の5つのUnitがあります。このCommunication Activityは、ひとつのUnitに2つのActivityが用意され、全部で10あります。ここでは、今までのLessonで学んだ文法事項を活用して、総合的な言語活動を行います。言語活動は対話が基本となり、information gapを使った活動、ペアで対話を発展する活動、interviewしながら生徒同士を知る活動等に分かれています。

Communication Activityの一例を取り上げて説明しましょう。Communication Activity 1はinformation gapを利用したペア活動です。最初の指示文には「表には、Erica, Kate, Shelly, Kenが先週末にしたこと、現在していること、今度の土曜日に予定していることが書かれています。この表について、情報交換し

よう」と書かれています。その下に、Model Dialogと表があります。最後に「3人のうちの誰かのスケジュールをクラスで報告しよう」という指示が書かれているReportingがあり、生徒は下線部に英語を書き入れ、複数の英文を完成します。この活動には、現在進行形、過去形、未来表現の文が含まれています。

生徒は中学校で経験しているため、この種のActivityに親しんでいることでしょう。しかし、中学校と大きく違う点は、文法事項を体系的に学んだ上で、活動している点です。やり取りを楽しむばかりでなく、英文を書くことにも重点があります。また、活動を通して、再度、文法項目を復習することも大切な点です。

教室活動を活発にさせるためのもう一つの工夫が、英語を使って活動できるように、Lessonの中のCheck、Grammar in Use、Exerciseの指示文やReview Exerciseの指示文を易しい英語にしたことです。生徒が無理せず理解できる範囲の中での最低限の英語の指示文の書き換えです。本教科書には、総合的な言語活動を目指すProject Workがありますが、その指示文については日本語のままです。これは生徒に無理な負担をかけずに、英語を使った活動を援助するための工夫です。確かに英語の指示文だけでは、英語を使った理想の授業とは異なるかもしれません。しかし、先生がこの指示文を読むだけで、その最低限の目的を果たす役目があります。本教科書の表表紙の裏には、教室で役立つ表現として、Classroom Englishの例があります。それらの表現を合わせて使うことで、英語を使って活動できるようになります。

最近、とかく英語教育の中で「英語の授業は英語で」という語句が、スローガンのように言われています。旧来の英語の授業を変えようとする強い意志の現れと理解できます。言い換えると、「目標言語を使って目標言語を指導せよ」となります。この指導法に関して、世界中でさまざまな研究成果が出されていますが、生徒に良い影響を与えるかについて必ずしも明確な結論が出ていません。むしろかなりの問題点も指摘されています。特に「表現」に関しては、生徒が表現の基礎となる文法事項を理解することを考えると、すべて英語で行うことは、文法という抽象的なことを理解できない可能性があるという点で、危険とも言えるでしょう。むしろ生徒の実態に合わせながら、先生の教室言語使用計画(Classroom Language Planning)

に従って、意図的かつ計画的に行うことが大切です。言語計画(Language Planning)とは、危機に瀕した言語を復活(revival)させるために、言語を意図的・計画的に使用することです。それを教室に応用したものがClassroom Language Planning (CLP)です。CLPを一言で言えば、外国語を生徒が教室内で使えるようにするために、どの場面でのどのように使わせるかを計画し、実行することです。1時間の授業内の英語使用計画ばかりでなく、次の時間、数週間、学期、年間の英語使用計画を含んだ総合的なものです。このCLPはWalesにおけるbilingual教育の中で、Translanguagingという名前で実施されています。紙面の関係でここでは詳しく述べられませんが、別の機会に指導書等で扱えればと思います。

変わらぬ特徴

上記の改訂に加えて、本教科書の変わらぬ特徴に関して、3点簡単に紹介しましょう。最初は、5つあるUnitの扉です。それぞれのUnitで扱う文法事項の要点を分かり易くまとめてあります。イラストとともに、Unitの中で扱う重要なポイントを興味深くまとめました。Unit1の最初は「時」と「時制」を区別しよう、になっています。現実の時間と文法上の時間が異なることを示しています。また、Unitの最初にはこの課で扱う学習目標も書かれています。次に、Unitの最後にあるReview ExercisesにあるWrite a Paragraph!です。ここでは自分自身のことについて、3つの英文で最低限のparagraphを書きます。Use!やCommunication Activity同様、自己表現の練習です。これが『MY WAY English Expression II』のparagraph writingに繋がります。まとまりのある英文を書くことで、英文を書くことに慣れ、生徒の論理性を伸ばします。最後がProject Workです。ここでは学習した文法事項に関係なく、総合的に言語活動する場です。4技能を伸ばすことが目的です。

以上、本改訂版の特徴を短く「より分かり易く、使い易く、活動的に」とまとめることができます。本書はすべての例文を生徒の観点から見直し、汎用的な文法説明を心がけ、生徒のメタ言語能力を伸ばしながら言語に対する気づきを促し、CLPを考慮しながら言語活動を重視した改訂版です。このような編集方針のもとに作成された改訂版が、生徒たちの言語表現力の育成に寄与できますことを願ってやみません。

『SELECT English Expression I New Edition』 —更なるユーザーフレンドリーな教科書を目指して—



『SELECT 英語表現』代表著者
成城大学 井上 徹

はじめに

『SELECT English Expression I New Edition』(以下、『セレクト表現』)は、生徒の学習意欲を高めることを目指して編集された「英語表現 I」の教科書です。現場の先生方が使いやすい伝統的な内容を土台にして、内容面でもタスク活動面でも楽しみながら英語学習が続けられるようにさまざまな工夫を凝らしています。本教科書の初版(平成26年度版)は、新学習指導要領の採択2年目に刊行されましたが、全国の先生方の信頼を受けて、多くの教育現場でご支持を賜りました。今回の改訂版では、取り扱う題材や掲載する写真を最新の内容にして、さらにユーザーフレンドリーな教科書作りを心がけました。

改訂版の編集方針

『セレクト表現』は、中学校で学んだ基本的な英文法を学び直し、さまざまな活動を通して、英語の表現力と発信力を高めることを目的としています。中学で学んだ英文法を学び直すと言っても、単に同じことを繰り返すのではなく、使用する場面を重視して、一歩進んだコミュニケーションのための英文法を基礎から丁寧に学んでいきます。

本教科書の初版では、学習指導要領で示されている総合的・統一的活動を通じて、英語を「学ぶ」ことと「使う」ことを並行して行い、学んだ英語が役に立つと実感してもらえ教科書作りをしました。この立場は今回の改訂版でも変わりありません。以下では、今回の改訂のポイントを説明します。

改訂のポイント

各レッスンの構成は、本書の最大の特色である、①イラストで視覚的に英文法の基礎を学ぶ**セレクト英文法36**、②学んだ文法項目を確認する「瞬間

チェック」から各課のテーマに沿った問題を解きながら文法項目の定着を図る「Gトレーニング」、そして、学んだ文法項目を使って会話形式で自分のことを発信する「Speak Up!」へと続く**系統的な反復学習**、そして③ポライトネスやコミュニケーションの立場から、場面に合った表現を選ぶ**場面でGo!**になっています。

改訂版では、初版の1レッスン見開き2ページの構成を保持しながら、小さな改訂を積み重ねました。まず、扱う題材に最新のものを取り入れ、写真と英文を新しいものにしました。具体的には、「はやぶさ2の挑戦」(Lesson 11)という最新の内容を取り入れています。また、前見返しと後ろ見返しのトリックアートの絵を新しいものにし、バスケットボール(Lesson 1)、宇宙食(Lesson 2)、錦織圭選手(Lesson 3)、Hello Kittyとアイドルグループ(Lesson 5)など、多くの写真を新しいものにしました。これらの変更に合わせて、**イントロ英会話**の英文や欄外の**なるほど☆ワード**の説明を調整しました。さらに、最新の話題を提供するために、練習問題の英文を一部変更しました。

取り扱う文法事項に関しては、初版で巻末の「文法のまとめ」にのみ掲載されていた<as ~ as ... >の同等比較を含む例文を「セレクト英文法36」の**プラスα**に追加しました。また、「場面でGo!」の問題を一部差し替え、正解が選びやすくなるように配慮しました。

さらに見やすく、わかりやすく、学びやすくするための工夫としては、デザインや活字を一新しました。これまで『セレクト表現』をご使用いただいていた先生方には、活字やデザインを新しくしたことで、教科書全体の印象が変わったことを実感していただけたでしょう。

このように、今回の改訂版では『セレクト表現』

をご使用いただく先生方にも生徒のみなさんにもこれまで以上に見やすく、教えやすく、学びやすくするように、微差を積み重ねています。

本教科書の特色

すでにご紹介したとおり、『セレクト表現』は英文法の基礎・基本を確実に習得しようとする高校生のために編集されたものですが、特に、英語を苦手としている生徒や英語に自信が持てない生徒たちに、これまでつまづいてきた事項や不安な事項を克服できるように編集してあります。そこで、この項では、英語の基礎・基本を学ぶために配慮したこと、『セレクト表現』の特色をあらためて紹介します。

1) 文法項目をイラストで図解

2単位の教科書であることを考慮して、何百とある英語構文や文法項目の中から、これだけは覚えてほしいという文法事項を36項目精選し、**セレクト英文法36**というタイトルで各レッスンに2つずつ配置しています。それぞれのキーセンテンスには、意味や用法の特徴を視覚的に理解できるようにイラストをつけ、図解しました。英語学習でつまづく原因になっている難しい英文法概念や抽象的な文法用語を避け、イラストを見るだけで楽しみながら基本的な文法項目のイメージを理解できるのが本書の一番の特色となっています。また、「セレクト英文法36」に関連する文法項目を、**プラスα**としてキーセンテンスごとに1~3項目取り上げています。「セレクト英文法36」にはガイドキャラクターがときどき登場し、語彙や構文の意味や用法を覚えやすいことばで紹介したり、補足説明してくれます。このように、わかりやすいイラストと生徒に語りかけるようなやさしいことばで、表現する際に基礎となる英文法を理解していきます。

2) 豊富な問題でセレクト英文法の定着をサポート

学んだ文法項目を実際に使えるようにするためには、繰り返し学習することが欠かせません。学んだ英語を生徒にすぐに使わせてみるために、「セレクト英文法36」のあとには、**瞬間チェック**という2択または3択問題を配置しています。簡単な練習問題をやってみて、自分にもできるという安心感を得られるようになっています。

「瞬間チェック」に続いて、各レッスンの文法項目とテーマに沿った練習問題**Gトレーニング(Gトレ)**に取り組むことで定着を図ります。『セレクト表現』の各レッスンは、世界の食文化、スポーツ、生き方、芸術、ご当地など、多彩なテーマを取り扱っています。「Gトレ」の問題文はテーマに沿って作られていますので、問題を解きながら、現代社会への関心を高められるようになっています。

また、各課の最後には、学んだ文法項目を利用して、会話形式で自分のことを英語で表現する**Speak Up!**を配置しています。下線部には表現例を示し、そのまま使える語句をまとめた**toolbox**を置いているので、英語の苦手な生徒でも容易にアウトプットできるようになっています。なお、「Gトレ」には4レッスンごとに**Gトレ^{プラス}**を配置し、問題を解きながら、各課で学んだ文法を補強、定着させます。万一学んだ文法項目を忘れていても、傍注としてヒントと関連するレッスンの番号が示されており、すぐに本課に戻って復習できるようになっています。本課で扱った文法項目は、高校生が日常生活でよく使う表現として、巻末に**文法のまとめ**として掲載しています。その英文は、「セレクト英文法」の例文同様に短くて覚えやすいものばかりですので、折にふれてご活用いただけたらと思います。

本課では上記の練習問題のほかに、左ページの冒頭で**イントロ英会話**を配置し、会話の中でターゲットとなる文法項目を使用した表現を導入しています。また、右ページの最初には、写真を見ながら行うリスニング問題**Let's Listen**を置きました。3つの英文のうち必ず一つには「セレクト英文法」で学んだ項目が含まれています。

3) 場面に合った表現を2択問題で学ぶ

「Gトレ」の後には、ネイティブスピーカーが実際に使っている表現を学ぶ**場面でGo!**を用意しました。ここでは、2つの文を見て、ヒントを参考に場面に応じた適切な表現を選びます。その表現は、各レッスンの文法項目に関連しているものになっています。生徒にとって紛らわしい過去形と現在完了形の使い分けを学んだり、日本語を直訳してしまうと誤解を招く表現を学んだりして、自分の気持ちをよりの確に表現するためには、英文法の実践的な知識が欠かせないことを実感していただけたらと思います。

4) 手を動かして英語の基本を総復習する

教科書の冒頭には、本課への導入をスムーズにするために、英語の基本中の基本を総復習する**Let's Start**を配置しました。最初のコーナーでは、実際に手を動かしてアルファベットの読み書きの復習をします。そのあと、単語のつづりを入れ換えて別の単語に変えるクイズに答えたり、アルファベット順に線で結んでナスカの地上絵を描いたりして、楽しみながらアルファベットの練習を行います。続いて品詞のコーナーでは、英語の単語が文の中で果たす意味や働きによって、いくつかの品詞に分類されることを再学習し、語順のコーナーでは、英語を読んだり書いたりする際に欠かせない英語の語順を、日本語の語順との比較で理解を深めます。

5) 「つなぎ言葉」ふしぎ発見

まとまった量の英文を話したり書いたりするときには、欠かせないのが、and、but、becauseなどのつなぎの言葉です。つなぎ言葉には、語と語、句と句、文と文を結びつけ、文章全体にスムーズな流れをつくるという重要な役割があります。**つなぎ言葉ランキング**では、現代英語の中で最も使用頻度の高い「接続詞トップ10」をあげ、わかりやすい例文と直感に訴えるイラストでその機能と用法を紹介しています。ふだんにげなく使っていた「つなぎ言葉」のふしぎを発見して、表現力のアップをねらいます。

6) 総合的な言語活動

『セレクト表現』では、新学習指導要領の趣旨を生かした総合的な活動として、**Speaking Station**と**Daily Conversation**という2つを設けています。

Speaking Stationは、読んだり聞いたりしながらテーマに沿った情報を取り入れ、自分の考えをまとめ、自分の意見を発表するアウトプット活動です。発表に必要な表現をワークシート形式で学びながら、パラグラフ・ライティングと発表の練習をします。身近な発明品、将来就きたい職業、日本文化など、生徒の興味を引くトピックが用意されていますので、楽しみながら取り組めるはずです。

Daily Conversationでは、本課で学んだ文法事項を使って、買い物、レストラン、道案内の場面で多用される基本的な会話表現に慣れ、実際に使えるようになることをねらいとしています。すでに知っ

ている英語の知識をどのように効率よく活用するかを、会話形式で紹介し、それぞれの場面に即した実用的で発信型の表現をまとめています。海外旅行やホームステイの際に役立つ表現集としても、ご利用いただけるはずです。

7) 欄外まで飽きない話題が満載

『セレクト表現』では、欄外に**英語で何という？**となる**ほどザ☆ワード**というミニコーナーを設け、生徒の知的好奇心や社会への関心を高める工夫をしています。

英語で何という？では、各レッスンの文法項目を含む、言えそうで言えない英語表現(日常表現やことわざ)を紹介しています。「セレクト英文法」で学んだ文法項目を使って、こんなこともあんなことも言えるということを実感していただけるでしょう。

なるほどザ☆ワードでは、人気の宇宙食、五輪のマーク、アニメということばのルーツなど、各レッスンのテーマに即した興味深い豆知識を提供しています。

おわりに

以上、『セレクト表現』の編集方針と特色を紹介してきました。文法項目をスムーズに導入し、学んだ項目の理解を深める工夫を随所で行っていることがおわかりいただけたと思います。

冒頭でも述べたとおり、本書は、どの生徒にも学びやすく、先生方にも教えやすいというユーザーフレンドリーな教科書をめざして編集されたものです。本教科書で取り扱っている文法項目の多くは基本的なレベルですが、この一冊を学び終えたときには、以前よりも達成感が得られ、英語を使って積極的に自己表現してみたくなっていることでしょう。本教科書で学んだことが、これからの英語学習を支える大きな力になると信じています。



"a goal
without a plan
is just a wish."
- Antoine de
Saint-Exupéry -

特集 教科書(改訂版) Part 1

『SELECT English Conversation』 — 繰り返しで会話力をつける —

『SELECT 英語会話』 代表著者
元拓殖大学 北出 亮



編集方針

「英語会話」の学習指導要領における目標は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。」となっており、この「英語会話」の前身である「オール・コミュニケーションⅠ」の学習指導要領の内容と基本的にほとんど変わっておりません。科目名は「オール・コミュニケーションⅠ」から「英語会話」となりましたが、テーマ・題材、言語活動の扱い、文法の扱い、英語での授業は、以前の「オール・コミュニケーションⅠ」と同じ扱いです。したがって、現在発行されている「英語会話」の教科書『SELECT English Conversation (セレクト英語会話)』は、全国の先生方から、長年その使い易さで好評であった前の学習指導要領の『SELECT Oral Communication Ⅰ』の編集方針をそのまま踏襲しています。

現在使用されています『セレクト英語会話』は、今から約20年前に初めて学習指導要領に科目として「オール・コミュニケーション」が登場した、1996年初版の『SELECT Oral Communication A』から始まり、この間、『セレクト』の基本コンセプトとして長年教育現場で大きなご支持を頂いてきた「Key Expression方式」「5段階ステップ方式」「コミュニケーション活動」「ワークシート」などの指導法を、改訂の度ごとに受け継いできました。そしてまた、現在お使い頂いています『セレクト英語会話』も、「授業が進めやすく、教えやすい」「楽しく学べて力がつく」「基本表現を繰り返して段階的に学ぶので、評価がしやすい」という基本的な編集方針に、さらに磨きをかけて編集されています。

先生方から支持された「5段階ステップ方式」

セレクトが全国の先生方に支持されていることの一つの大きな理由は、各レッスンが全て、「5段階ステップ方式」の活動パターンに基づいているという、使いやすさにあります。この方式が、特に英語が苦手な生徒にとってなぜ使いやすいのか、この方式の基本パターンを見てみることにしましょう。

① Key Expressions

まず、このレッスンの基本表現となる、3～5つの会話文が提示されます。この基本会話文が、この課で生徒が覚える「基本表現 (Key Expressions)」となり、この「基本表現」を生徒の記憶に残すために、これ以降のステップ活動の中で、最も効果的な活動を通して繰り返し何回も使っていくことになります。

② Warm-Up

次に、この「基本表現」を使うにあたって、よく使われる語句を確認していきます。音声でその語句を含んだ短い文を聞かせて、その文の中に教科書のイラストと語句で提示されているどの語句が入っているかを、クイズ形式で確認していきます。

③ Listening

次に、①で提示された会話の中に、②で確認しました語句を組み込んで会話が行われます。生徒は、その会話を聞いて、それに該当する項目に○をつけていきます。これは、表形式になっていて、答えも各項目別に選択方式になっていますので、解答しやすく、結果として、何回も「基本表現」を繰り返し聞くことになります。

④ Speaking (Communication)

次に、①の会話文の内容を自分のことに置き換えて、自分の立場で応答する練習をします。その答えを出すにあたっては、②のWarm-Upで確認した語句や、脚注にあるWords & Phrasesにある語句など

も参考にしながら、自分に合った語句を探すとよいでしょう。

⑤ (Interview / Role Play / Pair Work / Presentation) 活動

ここでは、会話の内容によって、その内容にもっとも適した3種類の異なった活動 (Interview, Role Play, Pair Work) が用意されています。

生徒同士で、①の会話文を使って、Interview / Role Play / Pair Work などの活動を行いながら、その結果を、用意されているワークシートの表に記入しておきます。これも表形式でまとめやすくなっていますので、記入したことを、最後に Presentation のパターンにまとめて発表すれば完成です。

以上、「5段階ステップ方式」によるこれら一連の簡単な活動を通して、何回も同じ「基本表現」を聞いたり話したりすることになりますので、必然的に、会話文そのものを記憶する定着率も高くなります。

* Challenge!!

さらに、時間的に余裕がある場合には、これらの「基本表現」が使われている実際の場面の会話文が用意されていますので、クラスの生徒同士で、お互いにスキットの練習をすることもできます。また、こ

の場面はDVDにも収録されていますので、臨場感を持ってその場面を確認することもできます。

新たな追加項目とその対応

「英語会話」の科目には、前の学習指導要領にはない「海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する」という項目がありますので、このことによる学習項目が、新しく追加された内容になっています。

海外での生活というと、高校生にとっては「留学」するということがいちばん可能性が高いことと思われれます。そこでこの教科書では、東西高校の生徒として新しく亜紀と拓を登場させ、アメリカへ留学させる「亜紀と拓の留学日記」の物語を作りました。また、「前見返し」は空港の到着ゲートの場面、「後ろ見返し」はお別れパーティの場面として使用しましたので、アメリカ入国からホストファミリーとの生活、学校での勉強、休日の観光、そして帰国のためのお別れパーティまで、留学全体の流れがわかるように工夫致しました。

基本的な会話表現は、イラストで面白く描かれた留学生活の様々な場面の中で、実用的な会話として

使われています。会話の場面は、本文の「亜紀と拓の留学日記」の中で47例、前後の見返しで25例、合計72例の対話文としての会話表現が使われていることとなります。

(1) 「亜紀と拓の留学日記 1～4」

留学生活の場面を、大きく

- ① ホストファミリーの家
- ② 食事と手伝い
- ③ アメリカの学校
- ④ 楽しい休日

の4つに分けています。4つの項目はそれぞれ、初対面のあいさつと家の中の案内、食事と手伝い、学校でのランチタイムや休み時間、授業や放課後、さらに市内観光や週末旅行など、具体的な生活場面に分かれています。

物語としては、留学生の亜紀と拓は同じ高校に留学しますが、様々な留学生活を紹介するために、別行動をとり、ホストファミリーも異なって設定されています。

会話の場面や表現は基本的なものを配置してありますが、学習者の生徒に興味を持たせるために、場面には面白い人物や動物を登場させ、時には少しオーバーに描き、楽しくユーモアのあるイラストを心がけました。

なお、留学の際の会話だけでなく、アメリカの文化的な背景や地理的な説明を簡単にまとめた「一口コラム」を場面ごとに準備しましたので、ご活用ください。

(2) 「前見返し」と「後ろ見返し」

「前見返し」と「後ろ見返し」は、ニューヨークの国際空港の到着ゲートと、亜紀と拓のアメリカでのお別れパーティの場面ですが、留学日記の中の一部として連結するストーリー性を取り入れました。

①前見返し

ニューヨークの国際空港の到着ゲートで、亜紀と拓がホストファミリーとあいさつを交わす場面が描かれています。空港では、荷物受け取り所、税関、荷物検査、両替、案内などの場面で接触する人達との会話を配置しました。また興味を持たせるために「前見返し」は、様々な動物(オウム、たこや鴨、カンガルー、蛇、らくだ)や人物(サンタクロース、自由の女神像、カリブの海賊、宇宙人、原始人、飛脚)、

そして物(石の貨幣、サンタのみやげ袋、海賊の宝石)がユーモラスに描かれています。留学の導入部分になりますが、楽しく学ぶことができます。

②後見返し

亜紀と拓が帰国するので、そのお別れパーティ会場での会話場面が描かれています。前見返しと同じように人物(リンカーン、自由の女神像、スーパーマン、サンタクロース、カリブの海賊、宇宙人、原始人、飛脚、忍者)や動物(オウム、猫、犬、リス、ハト、トナカイ、ペンギン、鴨)などがユーモラスに描かれています。ここでの会話は、滞米中の感想や思い出、別れのスピーチ、あいさつなどが準備されています。

(3) スターになって自己紹介

スターの写真ですが、生徒が興味を持つように、若者の夢と希望を実現している人達を基準に選び、現在の時代の中でスポーツ、芸能、政治、映画、作家、デザイナー、宇宙飛行士など世界で活躍している人や過去の人でも社会的活躍した人を中心に掲載しました。生徒と一緒に楽しみながらご活用ください。

終わりに

学習指導要領では、選択必修科目であった「オーラル・コミュニケーションI」から「英語会話」と科目名が変わり、教科書名も『SELECT Oral Communication I』から『SELECT English Conversation I』に変わりましたが、「使いやすく、教えやすく」「生徒が楽しく学べて、積極性が身に付く」「基本表現を繰り返すので、表現が無理なく身に付く」「評価がしやすく、教材が充実」などの基本方針は全く変わっていません。また、学習指導要領の追加項目には「亜紀と拓の留学日記」を新しく加え、「英語会話」のテキストとしてさらに充実度を高めています。ぜひご活用いただければ幸いです。

最後に、この『セレクト英語会話』の教科書に一貫して流れる編集方針は「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」です。「英語会話」は、文法的、音声上の完璧さを目指すのが目的ではありません。恥ずかしがらずに積極的に話し、発表し、聞くことが最も重要です。英語を話そうとする生徒を励まし、評価し、自信を持たせるご指導を先生方をお願いする次第です。

【5段階ステップ方式】

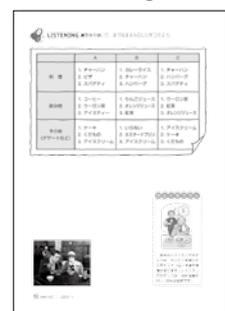
① Key Expressions



② Warm-Up



③ Listening



④ Speaking



⑤ (Interview / Role Play / Pair Work / Presentation) 活動



* Challenge!!



2016年度 センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属特別支援学校



筆記試験

1. 全体的な傾向

今年のセンター試験〔筆記〕でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がなされた。設問形式が若干変わった箇所はあるが、全体的な傾向は変わらず、例年通り基本的な問題が多かった。平均点は112.43と、昨年度の116.17より下がり、ここ10年で最低となった。総語数は昨年度より約100語減り、4300語弱となった。

コミュニケーション能力をみる問題としては、
第1問A：単語をきちんとした音で発話する能力
第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力
第2問C：ある発言に対し、適切な応答を考える能力
第3問A：対話がスムーズに流れるように、適切な発話を考える能力
第3問C：発言の内容を要約する能力
が例年通り求められている。

また読解力では、
第3問B：パラグラフ単位で文章の構成を論理的に思考する能力

第4問：グラフや図表、説明文を参考にして文章を正確に読み取る能力

第5問：長文の物語を読み、内容を正確に把握する能力

第6問：論説文の流れを正確に追い、各パラグラフの主旨をつかみながら長文を読み取る能力が試される。いずれも文章の全体的な流れをつかんだ上で、的確な情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

2. 具体的内容分析

<第1問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

A 発音(6点：解答数3)

基本的な単語の発音(母音が2問、子音が1問)を問う問題。カタカナにしたときの発音に惑わされやすい語(tiger〔問1〕、curtain〔問3〕)も例年通り複数出題された。スペリングが同じでも発音が異なるものに注意を払いたい。

B アクセント(8点：解答数4)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度と同様、今年度も2、3、4音節の語が出題された。アクセントのある個所に惑わされやすい語(politics〔問2〕、charity, demonstrate〔問3〕、agriculture〔問4〕)も例年通り出題される等、個々の語の正確なアクセントが問われる。

<第2問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

A 語彙、語法、文法(20点：解答数10)

語彙、イディオム、動詞の用法等を判断する問題。時制(〔問1〕〔問9〕)や分詞(〔問3〕)、仮定法(〔問8〕)は頻出である。イディオムやコロケーションの力を併せて要求する問題(neither + V + S〔問4〕、make sure (that) + S + V〔問5〕)も多い。基本的な副詞や形容詞(〔問6〕〔問7〕)、仮主語(〔問10〕)、関係詞、不可算名詞や接続語等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

B 語句整序(12点：問数3、解答数6)

各文の中に含まれる語彙・語法を用い、意味の通る文にする問題。動詞の用法(be wondering if + S + V〔問1〕、let + O + 原形不定詞〔問2〕、come to

～〔問3〕)は必出である。文法(仮定法や付帯状況等)も併せて確認しておきたい。

C 応答文完成(12点：解答数3)

与えられた語句を組み合わせ、対話に即した文にする問題。文法や語法の知識だけでなく、Come on!〔問2〕等の発言から、対話の流れも考える。

<第3問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

A 対話文完成(8点：解答数2)

対話文を完成させる問題。空欄と同じ内容を相手が次のせりふで言っていたり(hide itをput it awayで〔問1〕)、直前のせりふとほぼ同じ内容を別の表現で表現する(There's little point in even trying. とIt'd be a waste of time.〔問2〕)。代名詞(it〔問2〕)本文と選択肢)の指す内容を読み取る力も求められる。会話でよく使われる表現にも慣れておきたい。

B 不要文選択(15点：解答数3)

パラグラフのまとめりをよくするために取り除いた方がよい文を1つ選ぶ問題。まず、第1文からキーワードを読み取る(practical activities〔問1〕、Trial and error〔問2〕、Food / satisfies feelings〔問3〕)。不要な文にもキーワードは含まれている場合もあるため、前後の文との関連性に気をつけ、漫然と読み流さないようにしなければならない。

C 発言の意図の要約(18点：解答数3)

複数の人の発言の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の表現で言い換える(help us understand and deal with misunderstandingsをcope with cultural misunderstandingsで〔空欄32〕)ことが多い。また、各発言者の立場や状況も理解し、(Student 3がProfessorの考えを確認している〔空欄34〕)、発言の主旨をまとめる柔軟な読解力が必要とされる。

<第4問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

A グラフ読み取り問題(20点：解答数4)

グラフを参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめ、確認していく。グラフはあくまでも補助的なものであり、基本は説明文を正確に読めるか、が問われる。In comparison、However等の文と文の関係を示す語(句)で、論理の流れを正確につかみたい。最終段落に続く話題を考えさせる問題〔問4〕も、昨年度に引き続き出題された。

B ウェブサイト読み取り問題(15点：解答数3)

ウェブサイトから適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。問いに関する情報は上から順に出てくるわけではないので、設問の求める情報がある箇所(複数の情報を合わせる場合もある)を的確につかむことが大切である。

<第5問>(30点：解答数5)

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

昨年度まではウェブサイト、手紙、メールの内容に関する問題であったが、今年度は物語に関するものとなった。

He ~ sometimes skipping his classes. Little by little John's grades got worse. (本文第3段落)がHe lost interest in studying. (選択肢)とまとめられていることを読み取る〔問3〕。人間関係や場面の状況をつかむとともに、物語で何を一番伝えたいのかを丁寧に読み込んでいく。

<第6問>(36点：問数6、マーク数9)

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

各段落の内容を正確に読み取り(設問A)、段落の要旨を順に並べる設問(設問B)の2本立て。各段落のポイントをつかみ、話がどのように展開し、主題は何か、という広くかつ深い読解力が求められる。また、ここでも、正解の選択肢は本文で使われていない単語や表現で求められる場合も多いので、基本的な類義語を理解する力も必要である。

3. 昨年度から変化のあった点

- ①第5問の本文の情報源が、二つのウェブサイト、手紙、メールから、単一の物語になった。
- ②第6問で、過去2年間載っていたタイトルがなくなり、第6問A問5が、主旨を問う問題から、タイトルを問う問題になった。
- ③第6問A問2で、下線部の意味を求める問題が、難しい語やフレーズの意味を類推するものでなく、内容に即した具体的な表現を選ぶものになった。
- ④第6問Bで、段落構成を示す言葉がなくなった。

4. 日頃の学習で大切なこと

- ①多面的に語彙を増やす
ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・

接尾辞、品詞の転換、自動詞・他動詞等、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせてなんとか意味がつかめるようになる。カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方法であろう。

②語と語のつながり(語法、Collocation)に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われる場合が多いのか、英語としての語と語の自然なつながりに気を配る習慣を身につけておきたい。単独だとイメージしにくかったり、覚えにくいような単語も、自分が理解しやすい組み合わせなら、より効率的に覚えらる。

④英語を聞き、自ら口にする

アクセント・強勢・構文(主語と述語の区切れや省略等)に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をする。単語一つひとつの音に注意を払い、そして文全体の内容を理解しながら読み進む。何回も繰り返して読み込んでゆけば、なによりも英語の音に対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

④わからない語があっても、前後関係からその意味を類推する習慣をつける

センター試験では語彙に関する知識が求められる。とはいえ、意味のわからない語は必ず出てくるものと覚悟しよう。すべての単語の意味がわからな

くても主旨は理解できる、と余裕を持って文章を読み進めたい。未知語に出会うとすぐに辞書で意味を調べる読み方をしていると類推力、想像力が身につかなくなってしまう。

⑤論理展開を重視した読解力を養う

どんな読み物でも最後まで通して読み、論の展開がどのようになっているかをパラグラフ中心に考える。接続語を手掛かりに、パラグラフがどのように構成されているか全体の論調を捉え、各パラグラフのキーセンテンスを探し、要旨をまとめる。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心がけたい。

⑥多読を心がける

80分で4,000語を超える分量の英語を読みこなすには、普段から500～1,000語の文章をある程度のスピードで読むことを習慣とすることが大切である。授業では精読を中心に行っている、時には様々な分野、テーマ、形式の、比較的易しい文章に多く触れるような機会を与え、分量をこなす読み方も覚えさせたい。

⑦場面や内容のイメージをつかむ

会話の応答を考える場合(第2問C、第3問A)、その会話が行われている時、場所、状況等をイメージする力が求められる。その際、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。方向性を予測した上で、最後まで丁寧に流れを確認したい。

きうる身近な話題がテーマになっている。

2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル(12点:解答数6)

❖男女の対話を聞き、適切なイラスト、数字、単語、文を選択する

❖各対話の総語数:30語弱

イラストを選ぶ問題は1問になり、応募用紙の記入欄の位置を問う問題が新たに出题された。数値を聞き取って計算をする問題は昨年度と同じ2問である。最初のせりふで状況をつかみ、2番目～4番目のせりふのキーワードを聞き逃さないようにする。数字を聞き取る設問は2つ出题され((問2)(問4))、

両方とも簡単な計算が必要とされる。また、around, under, above ((問1))、at the bottom right, at the top, above ((問6))等、位置関係を示す語(句)も含まれ、せりふの細部まで集中して聞く姿勢が問われる。not care for (問3)、be due (問4)、be supposed to ~ (問5)等、日常会話でよく使われるフレーズにも慣れておきたい。

<第2問>対話応答補充(14点:解答数7)

❖男女の対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

❖各対話の語数:約20語～30語

問11

Woman: Would you like some beer?

Man: But, I'm only 20 years old.

Woman: If you're 20, you can drink alcohol in Japan.

選択肢

① I'm not 20 years old yet.

② I'm not 21 years old yet.

③ I thought it was 18, like my country.

④ I thought it was 21, like my country. (正解)

相手の述べたことへの自然な反応を考える。疑問文で終わる対話の設問はなくなった(昨年度は1問)。最初の2つのせりふから、会話の場面や状況を想像できるようにしたい。ここでも、why don't you ~? (問7)、Let's see, (問8)、Guess what? (問9)等、日常会話でよく使われるフレーズが頻出する。

<第3問A>対話内容Qs & As(6点:解答数3)

❖男女の対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する

❖各対話の総語数:約50語

問16

Woman: Angel's new song's great!

Man: Is the CD already out? I thought it was coming out next week.

Woman: Yeah, but the song's available online.

Man: Really? Maybe I should download it now.

Woman: But if you do that, you won't get the booklet.

Man: Oh, I definitely want that! I'd better wait.

質問: What is the man most likely to do?

選択肢

① Buy the CD at a shop immediately.

② Buy the CD at a shop next week. (正解)

③ Download the song immediately.

④ Download the song next week.

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。せりふの数は5～8。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんととらえる。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。話者が相手に同意しているのかそうでないのかといった話の流れをつかむ力とともに、話者の意図を正確に把握する力も求められる。

<第3問B>対話長文内容Qs & As+ビジュアル(6点:解答数3)

❖長めの対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する+表の空所を埋める)

❖対話の総語数:約150語

聞き得た情報をもとに質問に答えていく。その中には、図表の空所に当てはまる語を考える設問も含まれる。多く出てくる情報の中から、何について話しているか、相手はどう反応しているか、指示代名詞が何を指すのか等を考えながら、求められている情報を確実に押さえたい。

<第4問A>説明文内容Qs & As

(6点:解答数3)

❖説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖説明文の総語数:約200語

1回目と2回目の読み上げの間に約35秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えを絞り、2回目は確認の作業に当てたい。質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねてゆき、話の流れに沿って順に問題に当たってゆく。話の流れが変わったり、固有名詞も出てくる場合もあるので、メモを取りながら質問されるポイントの個所を絞って聞くことも大切である。選択肢では答えとなる語を別の表現で言い換えたり(having an argumentをfightingに)、まとめる場合も多いので、要点をつかむ力も求められる。

<第4問B>会話長文内容Qs & As

(6点:解答数3)

❖3人の会話を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

リスニング試験

1. 全体的な傾向

第3問B、第4問Bの出題形式が変更になった。それに伴い、昨年度まで第4問Bにあった説明文内容Qs & Asは第4問Aになった。解答数、配点は昨年度と同じである。読まれる総語数(1,100語強)は昨年度とほぼ同じ。読み上げ速度は昨年度とほぼ同じで自然な感じであるが、音声面でのリダクションもあり、聞き取りにくい個所もあったと思われる。問題音声も設問ごとに2回流された。比較的素直に英語の内容を問う基本的な問題であった。平均点は30.81と下がった(昨年度35.39点、一昨年度33.16点)。内容はいずれも生徒の日常生活や学校生活の中で起

❖ 会話文の語数：約300語

問題冊子に書かれている会話の場面と質問文に目を通し、事前にどれだけの状況を想定できるかがポイント。あとは一人ひとりの主張する内容を総合的に理解する力(共通点や相違点)と、求められた情報を正確に取り出す力が必要である。ここでも、選択肢では答えとなる箇所が別の表現で言い換えられていることがある。

3. 対応のポイント

① 状況・場面を想像し、話の流れをつかむ

事前に問題指示文、選択肢、イラスト、状況説明文等に目を通し、内容を予測してから英語を聞く。複数の方法が提示され、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。方向性を予測した上で、最後まで丁寧に流れを確認したい。

② 英語特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、会話に特有のフレーズは、聞けるだけではなく、意味が自然に頭に入るまで聞き慣れておくようにしておきたい。

③ 言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても選択肢を読み取る力は筆記試験同様に要求される。聞き取る英語の表現がそのまま選択肢に入っているとは限らず、別の形で言い換えてある場合も多くある。正答の鍵となる情報をきちんと整理する力もつけておきたい。

④ 全部完璧に聞き取れなくてもよしとする

筆記試験で英文を一字一句完璧に理解することを求める必要がないのは、リスニングにおいても当て

はまる。リスニングでは、聞き取れなかった箇所でも悩んでしまうと、次を聞き逃すことになる。たとえ理解できなかった部分があってもそのまま流し、「残りからさかのぼって推測すれば良い」と思うくらいの余裕が欲しい。

4. 日頃の学習で大切なこと

① 英語の音を聞き、その音を口にする活動を習慣にする

「継続は力なり」と言われるように、1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておいた上で、その音を真似して口に出す活動を続ける。次第に英文の流れが、意味を伴った内容となって頭に残ってくるようになるであろう。

② 聞いた内容を論理的に組み立て、考える力を育てる

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。教科書等の、ある程度分量がある文章の内容を理解した上で英語を聞いて論の展開をつかむ。そして音読、Qs & As, dictation等の基本練習を日頃から行い、論理的思考力も養っておきたい。

③ 自分のことばで実際に表現する機会を増やす

コミュニケーションを成立させるためには、お互いの考えをきちんと伝え合うことが必要である。相手の伝えたいことを理解し、それに対して自分の意見や考えを、決まりきったパターンではなく、自分のことばで実際に表現する活動を増やしていきたい。

*"You miss 100%
of the shots
You don't take."
-Wayne Gretzky-*



これからの時代の英語語彙学習に最適!

クラウン

発信力をアップさせる新世代の英単語帳

チャンクで英単語

Basic・Standard・Advanced

東京外国語大学教授

投野由紀夫 編



Basic
288頁 定価(本体750円+税)

Standard
336頁 定価(本体840円+税)

Advanced
408頁 定価(本体1,000円+税)

2色刷・B6判

◆赤シート付き



チャンク学習で
4技能を
飛躍的にアップ!

チャンクで覚えれば、そのまま英作文や英会話に使えます。一つひとつの単語をより確実に覚えられるので、リーディング力ももちろんアップ。
※音声無料ダウンロード、別売音声CD(2枚組)をご用意しております。

発信力を高める
2ステップ!

チャンクからセンテンスへ、2ステップの学習で、着実に発信力を高めることができます。

充実の単語情報!

フォーカスワード・単語コラム・多義語など、単語情報が満載。楽しみながら英語の理解を深めることができます。

エースクラウン英和辞典 第2版

類書中最大の収録項目
英和 5万1千/
和英 2万3千

- 中学校から高校初級向け!
- フォーカスページを増設!
- 単語ランキングを新設!

投野由紀夫[編]
B6変型判 1,904頁
2色刷 2,700円



三省堂 高校英語教育 2016年 夏号

- 発行 ————— 2016年6月20日 定価100円(本体93円)
- 編集・発行人 ——— 北口克彦
- 発行所 ————— 株式会社三省堂 ●ホームページ <http://tb.sanseido.co.jp/english/>
〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14
電話 (03)3230-9421 (編集) 振替 00160-5-54300
- イラスト ————— 只見 優佳 (ただみ ゆか)
- 表紙デザイン ——— 株式会社キャデック
- 印刷 ————— 三省堂印刷株式会社
〒192-0032 東京都八王子市石川町 2951-9 電話 (042)645-6111 (代)

コーパスを全面活用し、「生きた英語」を精緻に分析

ウィズダム 英和辞典 第3版

井上永幸・赤野一郎【編】
収録項目数 102,000
B6判 2,240頁 2色刷 3,400円



自然な英文を書くために、総合的英語発信を全面サポート

ウィズダム 和英辞典 第2版

小西友七【監修】・岸野英治【編】
収録項目数 90,000
B6判 2,112頁 2色刷 3,400円



ビーコン 英和辞典

第3版【小型版】

宮井捷二 = 監修
三省堂編修所 = 編



3大改訂ポイント

- 総項目数6万
- 中高マーク
- 総用例数3万

A6変型判 1,696頁 2,300円
カナ発音、和英インデックス付き

クラウン 英語イディオム辞典

安藤貞雄【編】
B6判 1,488頁 4,800円
類書中最大の総収録項目数
約6万3千、用例数約5万。句義
は原則頻度順表示。諺やコロ
ケーションも幅広く収載。



クラウン 英語句動詞辞典

安藤貞雄【編】
B6判 656頁 3,600円
類書中最大の総収録項目数
約1万3千、用例数約2万6千。
新しい句義・用例を大幅に
増補。



現代英語語法辞典

小型版
小西友七【編】
B6判 1,344頁 5,200円
各種文献を参考に独自の考察を
加え、近年大きな発展をとげた英
語語法研究の成果を詳細に記述。



英語語法詳解

英語語法学の確立へ向けて
柏野健次【著】
A5判 384頁 3,800円
様々な言語現象に潜む『なぜか』を追究・詳述した論考
全24編。英語研究者必携。



三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 <http://www.sanseido.co.jp/>
☎03(3230)9411(編集)・9412(営業) ※表示価格は本体価格
◆「クラウン」「エースクラウン」「ウィズダム」「ビーコン」は小社の登録商標です。